

# 全船協

会報 160号 2026年1月 新春号



「IINO INEOS VESTA(イイノ・イネオス・ヴェスタ)」 飯野海運株式会社 提供



一般社団法人 **全日本船舶職員協会**

**JAPAN MARITIME OFFICERS' ASSOCIATION**

無料船員職業紹介所 (国土交通省許可第8号)

URL <https://www.zensenkyo.com>

人と海に未来を

公益社団法人 日本海難防止協会

会長 池田 潤一郎

〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町33-8  
元代々木サンサンビル3F  
電話 (03) 5761-6050 / E-mail:2231jams@nikkaibo.or.jp  
<https://www.nikkaibo.or.jp>



北星海運株式会社

代表取締役社長 加藤 由起夫

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号  
セントラルビル6階  
電話 (03) 3275-5520(代) FAX (03) 3275-5575

**iSAP**

海事業界向けデータベースのネット公開サービス

「Maritime-iSAP」のご提供

詳しくはこちら <https://www.isap.co.jp/opac.html>

株式会社ISAP (アイサップ)  
東京都品川区大井 1-23-4 OValビル4F  
電話:03-5709-7525 FAX:03-5709-7527



一般社団法人

日本船舶機関士協会

会長 庄 司 勉

〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目5番地  
(海事センタービル5階)

電話 (03) 3264-2518  
E-mail:me-honbu@marine-engineer.or.jp  
URL <http://www.marine-engineer.or.jp>

清水水先区水先人会

会長 鈴木 泰治

副会長 八木 庸彰

〒424-0922 静岡市清水区日の出町10番80号  
清水マリンターミナル3F  
電話 (054) 352-2191  
FAX (054) 351-0527

関門水先区水先人会

会長 中野 精一

〒801-0841 北九州市門司区西海岸1丁目2番13号  
電話 (093) 332-2384(代)

海上の友

船員と船員家庭のタブロイド版新聞 毎月1日発行  
購読料 1ヵ月542円(税込・送料別)

お申し込み  
お問い合わせ (公財)日本海事広報協会

〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6  
電話 (03) 3552-5034 FAX (03) 3553-6580



Marine Trans System Co., Ltd.

株式会社マリントランスシステム

代表取締役社長 小林 悠

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号  
セントラルビル2階 (fabbit内)  
電話 050-3187-3610(代) FAX 03-6629-6290

宿泊設備 (海員会館) のご案内

ご宿泊・お食事・ご会合に、どなたでもご利用頂けます。

ナビオス横浜



1階 レストラン  
Ocean

※写真はイメージです。

ナビオス横浜



3階 バーラウンジ  
Seamen's Club



ナビオス横浜  
International Seamen's Club & Inn  
TEL : (045) 633-6000

川崎海員会館 TEL : (044) 233-5896

エスカル横浜 TEL : (045) 681-2141

エスカル神戸 TEL : (078) 341-0112

一般財団法人日本船員厚生協会(045)319-4506  
ホームページ <https://www.jswa.or.jp>

## 目次

表紙	「IINO INEOS VESTA(イイノ・イネオス・ヴェスタ)」	飯野海運株式会社	
巻頭言『瑞穂の国』	.....	会長 広重 康成	... 2
「若潮丸代船について」	.....	富山高等専門学校 校長 國枝 佳明	... 4
「新年のご挨拶」	.....	日本水先人会連合会 会長 高尾 幸徳	... 10
神鷹丸に響く“音の防汚”	.....	合同会社 海と緑の技術研究所 平賀 和徳	... 12
赤池まさあき国政ニュース ～国づくり、地域づくりは、人づくりから		赤池 誠章	... 14

### 北から南から

富山高等専門学校	.....		16
鳥羽商船高等専門学校	.....		24
広島商船高等専門学校	.....		32
弓削商船高等専門学校	.....		37
大島商船高等専門学校	.....		44
海技教育機構	.....		49
第53回戦没・殉職船員追悼式ご案内	.....	公益財団法人 日本殉職船員顕彰会	...52
第52回戦時徴用船遭難の記録画展	.....	公益財団法人 日本殉職船員顕彰会	...53
本部・支部だより	.....	事務局	...54
役員立候補者募集告示	.....	役員候補者選考委員会	...55
賛助会員名簿	.....	事務局	...56
会費納入者名簿	.....	事務局	...57
2025 年度 新入学・卒業入会者名簿	.....	事務局	...59
時事寸評・表紙写真解説・編集後記	.....	事務局	...61

### 事務局からのお願い

会員の皆様におかれましては、当協会の活動にご協力いただきありがとうございます。  
転居等で住所変更が生じた場合は、ホームページの「会員用ページ」より、住所変更が可能ですのでご利用ください。また、メール等による連絡でも結構です。

TEL:03-3230-2651 FAX:03-3230-2653

E-Mail:[honbu@zensenkyo.com](mailto:honbu@zensenkyo.com)

ホームページ:<https://www.zensenkyo.com>

## 『瑞穂の国』

代表理事・会長 広重康成



昨年は備蓄米を放出する米騒動が起きました。私の田舎は福岡県三潞郡筑邦町荒木という筑後平野の一角に位置し、田んぼ畑が広がる農村地帯にありました。現在はお隣の久留米市に

吸収合併され久留米市荒木町に変わりましたが JR の駅は荒木駅として残っています。

春の田植え時期と秋の収穫期には丸 1 週間農繁期として中学校は半ドンになります。農家の子は帰って親の手伝いをする。それ以外の子は部活動をする。先生が校内を回って農家の子がまだ学校に残っていると「こりゃ！ さっさと帰って父ちゃん母ちゃんの手伝いばしえんか！」と叱られます。

田んぼには色々な生き物が住んでいました。タニシ、ヤゴ、オタマジャクシ、ゲンゴロウ、ヘビ、モグラ。昆虫のアキアカネやテントウムシ。鳥ならツバメ、トビ、コサギ、スズメ。水をたっぷり張った田んぼからカエルが生まれ、夜はカエルの大合唱の中で眠ったものでした。今のようにトラクターはありませんから馬を使って田起こしをしていました。農耕用の馬に器具を付けて土を耕すのです。五月初旬に田んぼの土を攪拌する代かきという作業をします。これが終わる五月中旬にいよいよ田植えです。

この時期に中学生は手伝いのために半ドンで帰宅するのです。

秋の稲刈りシーズンにも中学生は貴重な労働力として半ドン要員です。だから運動会と日程が被ることは絶対にありませんでした。

田植えが終わると祭りがありました。春の祭り

です。夏は青々とした稲穂が育ち、水を湛えた田んぼから水蒸気が上昇し、決まって夕立がありました。冷房のない時代でした。でも夕立後の涼しさはそれなりの癒しであり、人々は自然の循環に満足し無意識に自然の恵みに感謝していた時代でした。秋には黄金色の稲穂を刈り取ります。終われば秋祭りです。あちこちの神社で盛大に行われていました。今日はどこそこ、明日はあっちこっちと、友だちと神社を梯子して回ったものでした。

ところがすべての小中学校にプールができました。それまでは川で泳いでいたのに、農薬が使われるようになったからです。

農薬散布が済んだ田んぼには赤い三角形の布を先端に取り付けた竹が突き立てられます。毒が撒かれたと子供心に想いました。

「挑戦する田んぼ」安田弘法著(岩波書店)が昨年出版されました。この作者は山形大学農学部名誉教授です。山形県鶴岡市在住。農学博士です。

ここから本の内容を随所に引用させていただきます。私はご本人と直接お話しできるご縁があり、完全無農薬の米作りを実践していると言われ、聞きかじりの知識のまま「無農薬ではなく減農薬でしょう？」と申し上げましたら「完全無農薬です」とぴしゃりと言われました。

安田先生は実際に「タニシのお米」というブランド米を育てられ、完全無農薬・完全無肥料・完全無除草剤の研究を今も続けられています。無農薬・無肥料・無除草剤の田んぼにはたくさんの生き物が住んでいて実に賑やかなのだそうです。除草剤を使わないから当然色々な草が育ちます。するとそれを食べる多種多様な昆虫も集まって来ます。更に昆虫を捕食するクモも来ます。次に捕食者を食べるために集まる生き物も寄って来るのです。そうこうするうちに田んぼはたくさんの生き物が暮らす場所にな

ります。

我が国は昔から瑞穂<sup>みずほ</sup>の国と呼ばれています。このみずほとは、みずみずしい稲穂のことです。古事記、日本書紀には日本のことを「豊かな稲が育つ国」と書かれています。本では肥料や農薬を使っている田んぼを「普通の田んぼ」と呼んでいます。殺虫剤や除草剤、化学肥料を使いますから高収量のお米が収穫できます。しかし、田んぼで暮らす生き物たちが少なくして静かな田んぼになるのです。これを読んであつと思う経験があります。風力発電の風車です。山に何本も立てられています、その山に友人と登ったことがあります。すごく静かなのです。いいえ無音の世界です。静寂ではありません。無音です。音そのものが消えているのです。鳥の声が完全ではありませんでした。不気味な無音の世界がありました。

イネを食べる害虫やその天敵、それ以外の虫が農薬で排除されてしまうから、虫を食べるツバメなどの捕食者も減る。すると食物網も単純になり、食物連鎖も途切れてしまう。

随分昔のテレビですが、フランスの医療チームがアフリカのある部落に入り子供の生存率を高める実証実験をしました。そこでは10人生まれても育つのは2人くらいしかいない。それで最新の医療技術や衛生面の援助や教育も施して、数年掛けてついに7~8人までに高めることができた。そして10年後、どうなっているか確認に行ってみると、何と村そのものが消滅していたのです。ええっ、何でだろう。隣の村に聞き取りをしたら、女性が答えました。「私はその村の出身です。この村に嫁いできたのです。私の村は子供が多く生まれ育つようになり、食べる物がなくなりました。だから今はあの村の生き残りは私一人です」

化学肥料と農薬や除草剤を使う「普通の田んぼ」はイネが均一に育ち収穫量が増えます。一方「自然共生田んぼ」は育ち方にばらつきがあります。だから収穫量では劣ります。これだけ読むと私も肥料・農薬・除草剤も必要なんだと考えます。でも佐渡のトキが絶滅した事実を知ると、いかがでしょうか。

トキは江戸時代までは水田でよく見られるごく普通の鳥だったのに、羽がきれいだったため乱獲され次第に減っていきました。特に戦後、農薬と除草剤の使用が増えてトキの餌であるカエル、タニシ、ドジョウが減りました。また森や林の木々を伐採したため繁殖地も減り、ますます少なくなりました。1960年代には佐渡島に数羽残るだけとなりついに2003年、野生のトキは絶滅しました。その後日本政府は中国からトキの個体を借り受け人工的に繁殖させることができ、2012年に野生化によるヒナが生まれました。36年ぶりの自然繁殖だったので。

佐渡市ではトキが暮らせる環境を守るために認証制度を決めています。その中には1.田んぼで「生きものを育む農法」を行うこと。2.化学合成農薬と化学肥料を、地域基準より50%以下にすること。3.田んぼの畔に除草剤を使わないこと。が明記されています。

私たちは海という大自然の恵みを受けて生きている海洋生物のはしくれです。山が荒れたら海は死にます。地球規模の自然循環が破壊されたら人類は絶滅します。おいしいお米を食べることは、自然を守り育てること。当たり前のことです。ご安全に！

(参考)



# 若潮丸代船について

富山高等専門学校 校長 國枝 佳明

## 1. はじめに

2025年10月23日(木)、三菱重工下関造船所において、富山高等専門学校の練習船「若潮丸」の命名・進水式が、広重会長をはじめ多くの関係者のご臨席のもと、盛大に執り行われました。商船系5高専が建造するシリーズ船としては、2023年の「大島丸」、2024年の「弓削丸」、2025年の「鳥羽丸」に続く第4船目にあたります。

式典では、国立高等専門学校機構の谷口理事長から力強いお言葉とともに「若潮丸」と命名されました。初代若潮丸の就航は1957年(昭和32年)であり、今回の船は通算5代目となります。「若潮」という名には、海で学ぶ若者たちの成長、新しい潮流への挑戦、そして新たな門出を象徴する意味が込められており、その精神が代々受け継がれています。続いて、本校商船学科の学生3名による支鋼切断が行われ、造船所のブラスバンドによる和海寮寮歌の演奏が響く中、若潮丸は静かに船台を滑り下り、関門の海へと船出しました。船体が海面に浮かび上がり、巖流島の方向へ進む光景は、まさに「船の誕生の瞬間」といえる感動的な場面で、見守る人々から大きな拍手が沸き起こりました。

進水後は、約5か月間の艀装工事を経て、2026年3月に完工・引き渡しが予定されています。

この報告では、新しい若潮丸の概要と、今後の活用方針について紹介いたします。

(三菱重工ホームページより)



写真1 進水する若潮丸\*

## 2. 若潮丸の概要

若潮丸V世は、他の商船系高専の練習船と同様に、実習環境と居住環境の両面で優れた性能を備えています。

本船は「広島丸」の主要寸法を参考に、関係法令に適合するシリーズ船として設計・建造が進められました。

船舶運航における安全性や効率性を高めるため、船橋や機関制御室では情報を共有しながら適切に連携できるように設計されています。

また、BRM (Bridge Resource Management) およびERM (Engine Room Resource Management) の訓練に対応したスペースと設備を備え、実践的な訓練が可能です。

### (1) 操舵室

操舵室はこれまでの練習船の船型を踏

襲し、船首側の高い位置に配置されています。

船橋は統合型システムとして設計されており、航海計画や操船シミュレーションを行う BRM 訓練を十分に実施できる広さを確保しています。

学生たちは、実際の船舶運航と同じ環境で航法・通信・避航判断などを学ぶことができます。

## (2) 居住区および公室

居住区画は ILO (国際労働機関) による 2006 年の「海上労働条約 (MLC2006)」に準拠し、十分なスペースと快適性を確保しています。また、実習や研究活動を行うための公室もゆとりをもって設けられています。

特に、多目的実習室 (教室兼学生食堂) は、荒天時の雨具の着脱スペース、救急救命活動の場、海洋調査時の観察エリア、さらには災害時の物資保管や救助者待機スペースとしても活用できるように設計されています。一室で多用途に対応できる構造が、この船の特徴の一つです。

## (3) 機関室・機関制御室

機関室は安全で効率的な実習を行うための広い空間を確保し、最新のハイブリッド機関を採用しています。

これは、内燃機関と電気推進を組み合わせた方式で、環境負荷を低減しつつ多様な推進条件に対応できる設計です。

また、ERM 訓練を行うための機関制御室も整備され、学生が実際の運転・監視・故障対応をシミュレーションできる環境が整っています。

## (4) その他

若潮丸 V 世は、教育・訓練だけでなく、

災害支援や海洋調査、海難救助といった多目的な活動にも対応できるよう設計されています。これにより、緊急時には物資輸送や救助支援など、地域社会への貢献も可能となります。

表1 若潮丸IVと若潮丸Vの比較

	若潮丸IV	若潮丸V
資格	第四種船	第四種船
航行区域	近海区域 (非国際航海)	近海区域 (非国際航海)
総トン数	231トン	約370トン
全長	53.59m	約57m
幅 (型)	10.0m	約10.6m
深さ (型)	5.40m	約5.80m
速力	約12.50ノット	約14ノット
航続距離	約2,180海里	約2,300海里
定員	56名 (うち乗組員9名)	60名 (うち乗組員9名)
主要設備	バウ&スタンスラスタ 可変ピッチプロペラ シリングラダー	災害支援機能, 防災機能 統合型船橋システム バウ&スタンスラスタ 可変ピッチプロペラ BRM・ERM実習対応 感染症対策 外海航行能力向上

## 3. 若潮丸 V 世の特徴

若潮丸 V 世は、シリーズ船として共通の設計思想を持ちながらも、富山湾という独特な海域で運航することを前提に、地域特性に合わせた工夫が随所に盛り込まれています。

ここでは、その主な特徴を紹介します。

### (1) 実習海域に合わせた設計

若潮丸の実習拠点である富山湾は、西側を能登半島に囲まれた袋状の地形をしており、冬季に北西の季節風が吹く時期でも、能登半島が自然の防波堤となるため、比較的穏やかな海域です。

一方で、北～北東方向は開けており、この方向からの高波が富山県沿岸の波浪被害をもたらすことがあります。

さらに、海岸線が平坦で避泊地が少ないため、荒天対策がとくに重要です。

こうした特性を踏まえ、若潮丸V世では次のような設計上の工夫が施されています。

- ① 強い風浪やうねりに耐えるため、外板を厚くし、フレーム構造を細かく区切った高い耐航性を持つ船体構造としました。
- ② 実習時の安全を確保するため、船体の動揺を軽減する減揺装置を搭載しました。
- ③ 強風で傾いた船体をすばやく復原する機能を備えています。
- ④ 離着岸時の操作性を高めるため、強風下でも十分な推力を発揮するサイドスタを装備しました。
- ⑤ 雨天や荒天でも甲板上で実習ができるよう、全天候型の甲板スペースを確保しました。

これらの工夫により、学生が安全に実習を行える環境が整えられています。

## (2) 災害支援機能の強化

若潮丸V世は、日本海側で唯一の高専練習船として、災害時における支援活動にも対応できるよう設計されています。

母港は、富山高専射水キャンパスから約3km西に位置する富山新港東端の「臨海実習場」で、150mの専用岸壁を有してい

ます。この臨海実習場には、艇庫や臨海合宿研修所、天井クレーン、ポンド、浮棧橋などが整備されており、敷地面積は11,232㎡に及びます。災害時には、これらの施設と若潮丸を一体的に活用することで、物資輸送・救助活動・避難支援など、包括的な災害対応拠点として機能します。

## (3) 海洋観測・調査研究設備

若潮丸V世が主に活動する富山湾は、日本海最大の外洋性内湾であり、湾中央部では水深1,000mを超える深さを持つ珍しい地形です。急勾配の海底地形や複雑な水塊構造など、調査対象として非常に興味深い特徴を備えています。こうした環境を生かし、若潮丸には最新の海洋観測・研究設備が搭載されます。富山湾は、気候変動や人間活動が海洋生態系に及ぼす影響、水資源や海洋環境の保全などを研究するうえで格好のフィールドです。若潮丸は、教育・研究の両面で富山湾の持続的な利用と保全に貢献する船として位置づけられています。

## (4) 自動運航・自律運航船に対応した教育環境

近年、自動運航・自律運航船の実用化に向けた技術開発が進み、海事教育にも新しい対応が求められています。若潮丸V世では、次世代の船員教育に向け、陸上からの遠隔操船や情報連携が可能なシステムを導入しています。

主な装備は次のとおりです。

- ① 船内LANシステム
- ② 機関部統合制御システム
- ③ 自動位置保持装置

これらにより、学生は実際の船舶運航と同じ環境で、次世代船の管理・制御技術を

体験的に学ぶことができます。若潮丸V世は、単なる練習船ではなく、未来の海運技術を学ぶ実践の場としても機能するのです。

#### 4. 若潮丸の活用

##### (1) 高度な人材育成のための実習・訓練

若潮丸V世は、Society 5.0 時代に求められる「海運DX人材」の育成に欠かせない練習船です。最新のシステムを備えた船上での実習・訓練を通じて、学生は次世代の海事技術や安全運航管理を体験的に学びます。

富山高専では令和2年度にディプロマポリシーを改訂し、「AI・データサイエンスの素養を持ち、ビジネスの視点から新しい価値を創造できる力を養う」ことを掲げました。この方針に基づき、数理・データサイエンス・AI教育をリテラシーレベルから応用基礎レベルまで体系的に展開しています。

文部科学省から正式な認定も受けており、学生たちはAIやデータを活用して問題を分析し、解決策を導き出す力を身につけています。

若潮丸での実習は、これらの知識を現場で実践的に活用する絶好の機会です。AIやIoT技術を応用した自動運航・自律運航の仕組みを理解し、DX（デジタルトランスフォーメーション）時代に対応できる海事技術者としての能力を高めることができます。

##### (2) 災害支援強化

2024年の能登半島地震では、発災後に石川県から若潮丸を活用した人員輸送の打診がありました。正式な要請には至りま

せんでしたが、富山高専は独自に支援を決定し、海上輸送による支援活動を実施しました。七尾港への飲料水輸送を目的に、教職員と企業の協力によって2リットルのペットボトル6本入り400ケースを準備し、学生たちの協力で積み込みを行いました。1月27日早朝に出港し、教職員14名が乗船。現地では陸上班と連携して、避難所へ全ケースを無事に届けました。

この経験を通じ、若潮丸が災害時に担うことができる役割が明確になりました。主な機能は以下のとおりです。

- ① 捜索・救助活動：津波や土砂災害で行方不明になった人々の捜索・救助。
- ② 医療支援：DMAT（災害派遣医療チーム）を乗船させ、診療・相談・健康チェックを実施。
- ③ 消火活動：沿岸火災に対する海上からの消火支援。
- ④ 物資輸送：飲料水や食料、燃料などの大量輸送。
- ⑤ 人員輸送：被災者、医療従事者、復旧作業員などの移送。
- ⑥ 避難・宿泊支援：船内設備を活用した避難所・宿泊施設としての活用。
- ⑦ 炊き出し・供食：船員による温かい食事の提供。
- ⑧ 情報拠点機能：海事衛星通信やVHF無



写真2 飲料水を積み込む様子

線を活用した通信拠点。

⑨ 船上型携帯基地局：沿岸通信の確保に貢献する船上通信設備の運用。

これらの機能により、若潮丸は「動く災害支援拠点」として地域に貢献できる存在です。

### (3) 海洋観測・調査研究の推進

富山湾は、中央部で水深 1,000m を超える日本海最大の外洋性内湾です。急峻な地形や複雑な海流構造を持つため、研究対象として極めて興味深い海域といえます。若潮丸では、以下のような多様な観測・研究活動を実施できます。

- ① 水温・塩分・密度などの水塊構造調査 (CTD 観測)
- ② 海流・潮流・内部波の流動解析 (ADCP 観測)
- ③ 海底地形の精密測量による地形変化・崩落監視
- ④ 富山湾深層水の入れ替わり周期の調査
- ⑤ 溶存酸素・pH・栄養塩などの水質測定による環境評価
- ⑥ 有機物・重金属・マイクロプラスチックの汚染分析
- ⑦ 炭素循環・二酸化炭素吸収能などのブルーカーボン研究
- ⑧ プランクトンや冷水性生物の生態観察
- ⑨ 気象データの海上観測 (風・気圧・気温など)
- ⑩ 海底地すべり・断層帯の地質リスク調査

さらに、観測データを教育や地域連携に活かす取り組みも進められています。たとえば、観測結果をオープンデータ化して教育教材に活用したり、ROV (無人探査機) の実証試験を行うなど、産学官が連携した

研究も期待されています。



写真 3 海洋調査の様子

### (4) 海洋教育・海事広報活動

若潮丸は、地域の子どもたちや一般市民に海の魅力を伝える活動にも積極的に活用されます。「海を学び、海を好きになる」ことをテーマに、体験型の海洋教育を行う予定です。

主な活動例は以下のとおりです。

- ① 航海・操船体験 (航海士・船長の業務体験)
- ② 機関室見学・エンジン操作体験
- ③ CTD やプランクトンネットを用いた海洋観測体験
- ④ 気象観測 (風・気圧・波浪など) の実習
- ⑤ 救命胴衣の着用訓練
- ⑥ 富山湾の地形・生態系・海洋文化の学習
- ⑦ 小中学生・一般市民向けの体験航海や出前授業
- ⑧ 夏休み・海の日に合わせたイベント航海
- ⑨ 船内見学会 (ブリッジ・機関室・居住区など)
- ⑩ 海洋教室や船上公開講座の開催 (例：「海とエネルギー」「気候変動と海」)  
こうした取り組みを通じて、若潮丸は次

世代に「海への関心」と「海を通じた学びの喜び」を届ける役割を担います。

## 5. おわりに

2025年10月23日に無事進水した富山高専の練習船「若潮丸V世」は、学生たちが実際の海を舞台に航海技術や機関運転などを学び、座学だけでは得られない実践力を身につけるための重要な学びの場となります。最新の設備を備えた本船での実習は、全国の高専が進める教育・訓練の高度化を支えるものであり、今後の社会で求められる人財育成に大きく貢献していくことでしょう。変化の激しい現代社会において、富山高専が推進する「数理・データサイエンス・AI教育」と若潮丸での実践的学びが結びつくことで、海運のDX（デジタルトランスフォーメーション）やGX（グリーントランスフォーメーション）を担う新しい世代の人財が育っていくと確信しています。

また、災害対応機能を強化した若潮丸は、被災地への物資や人員輸送だけでなく、通信支援や拠点機能を備えた「海上の支援基地」としても活躍が期待されます。

さらに、世界で最も美しい湾クラブに加盟している富山湾という特別なフィールドで、学術研究や環境保全、地域社会への貢献にも大きな役割を果たすことでしょう。

富山湾は、急峻で深い海として知られ、学術的にも水産的にも大きな可能性を秘めています。この湾を舞台に活躍する若潮丸は、研究・教育・地域貢献の拠点として、富山高専の特色を全国へ、そして世界へ発信していく象徴的な存在となります。

そして何より、若潮丸は地域の皆さまや次の時代を担う子どもたちに、海の不思議さ、豊かさ、そして素晴らしさを伝える場として活躍していきます。海の学びを通して、私たちの暮らしを支える「海運の重要性」や「海と共に生きる社会のあり方」を広く伝えていくことが、この船の新たな使命です。

富山高専の教職員一同は、この新しい若潮丸を最大限に活用し、実践的で国際的な視野を持つ人財を育てるとともに、地域の発展と社会の未来に貢献できるよう力を尽くしてまいります。



図 若潮丸Vの完成イメージ

# 新年のご挨拶

日本水先人会連合会会長 高尾 幸徳

新年明けましておめでとうございます。  
日本水先人会連合会会長の高尾幸徳でございます。

2025年6月26日より現職に就いております。微力ではございますが水先人会のため尽力させていただきます。

6月26日の当連合会の通常総会懇親会において話したのですが、会長就任にあたり特に力を入れて推進したいことが3つあります。

- 1) 安全運航 NO MORE 事故、NO MORE 違反
- 2) 優秀な人材の確保と教育
- 3) 物価高対策

今回は特に2) 優秀な人材確保と教育に関連して、水先人会の紹介及び水先人のPRをしたいと思っております。

さて、まずは当連合会の存在意義と目的です。国土交通省海事局海技課所管の特別民間法人で、全国の水先人会で構成されており、『水先人会の会員の品位を保持し、水先業務の適正かつ円滑な遂行を資するため、水先人会及びその会員の指導、連絡及び監督に関する事務を行なうことを目的』としています。(水先法第55条)

## 1. 水先人とはどんな仕事？

### ① 船長の助言者

船長は常に自分の船を安全に運航するための責任者であります。世界各地の港の状況や気象・海象、船舶交通の実態等を把握することは不可能です。そこで、水先人が、その港や水域の事情に精通する

専門家として乗船し、船長に助言を行っております。

### ② 国民生活と経済活動の側面サポート

島国で省資源国の日本に住む1億2千万人の生活を支えていくには外国から船舶で輸入される食糧及びエネルギー等に頼らざるを得ず、また卓越した加工技術で製造された製品を海外に輸出するためにも船舶は不可欠です。年間約9億トンが船舶輸送に頼っています。日本の主要港に出入りする外航船は年間9万隻と言われており、著しい船舶交通の混雑が発生しています。加えて日本の沿岸には良い漁場が多く、多数の漁船が操業しているため、また、釣船やプレジャーボートが多く、大型船の航行には大変な苦勞が伴います。このような状況の中で、我が国の船舶交通ルールに従い、事故を起こすことなく船舶を無事に港に出入りさせるために水先人がいます。水先人は、国民の生活と産業に欠かせない船舶輸送における安全を支えています。

### ③ 海上交通の秩序維持と海難事故の防止

平成14年の古いデータですが、日本で最も混雑していると言われている水域での水先人乗船時に発生した事故件数と、非乗船時に発生した事故件数を比較すると、非乗船時は乗船時の約9.7倍の割合で事故

が発生しています。日本の港湾でひとたび大規模な海難事故が発生すると、人名、財産、環境等に多大な影響を及ぼすだけでなく、日本の経済活動や生活にも支障が生じる事となります。水先人は、船の交通秩序を保ち、多くの海難事故を回避し、これに伴う油流出防止などの環境保全にも貢献しています。

## 2. 水先区とは？

水先人が業務を提供する水域を『水先区』と言い、外国航路の船舶が多く出入りする港、湾、内海等の水域に設定されています。例えば『博多水先区』のように港の水域ごとに設定された水先区と、『東京湾水先区』のように複数の港を含む湾や『内海水先区』のように海峡あるいは瀬戸内海を含む水域に設定された広域の水先区があり、その規模は様々で、全国に34の水先区が設定されています。

## 3. 水先人の生きがいとは？

- ① 操船技術はもちろん、様々な知識、経験を基に、船長から信頼されて操船を任せられ、安全かつ船長が満足する内容で水先を終え、船長から“Good job! Thankyou!”と言われた時は水先人冥利に尽きます。
- ② 乗船する船舶のほとんどが外国船であり、乗組員の国籍も様々なので、いろいろな国の言葉や文化あるいは慣習に接することができ、外国で仕事をしているような面白さがあります。
- ③ 1船1船が勝負であり、安全に業務を

終了すれば後に何も尾を引きません。交互に訪れる適度な緊張とリラックスが織りなす非常にやりがいのある仕事です。

- ④ 水先人は、日本の港を訪れる外国船が最初に接する日本人であり、その印象で日本そのものを感じ、想像するきっかけとなることから、『無冠の外交官』とも言われている職業であり、常に自信と誇りを持って業務に励んでいます。

## 最後にひとこと

日本は、輸出入貨物の99.6%が船によって運ばれています。海上輸送の維持・継続を確保することは、国民生活や経済・産業活動において不可欠であるという強い自覚を持ち、自信と誇りを持って、高品質で安全・安心な水先サービスを提供していきたいと思っています。

皆さん、全国の水先人会はやる気のある、優秀な人材を求めています。

興味のある方は是非下記参照のウェブサイトまたはYou Tubeをご覧ください。

**PILOT**  
<https://www.pilot.or.jp>



日本水先人会連合会  
ウェブサイト



YouTube  
「日本水先人会連合会  
公式チャンネル」

# 神鷹丸に響く“音の防汚”

合同会社 海と緑の技術研究所 平賀 和徳

## 船体をきれいに保つために

船体の汚損が燃料消費を押し上げる影響は大きく、状況によっては20%近く燃費が悪化するとも言われています。現場で仕事をする中で、この“汚損＝燃費”の関係は、誰もが知っていて、でも完全には解決できていない課題だと痛感しました。大型船では、わずか数%の燃費悪化でも年間になると莫大な損失になります。この「古くて新しい課題」に、もう一度技術者として向き合っています。



東京海洋大学 練習船 神鷹丸

## 超音波という“音の力”で汚れを抑える挑戦

現在、東京海洋大学と共同研究として取り組んでいるのは、超音波を使って船体にバイオフィルム（初期汚損）が付かないようにする技術です。超音波は40kHz帯を中心に、船体へ微細な振動を与えます。この振

動が海洋微生物の付着を妨げ、結果としてフジツボなどの大型付着生物の定着も防ぎます。海外ではすでにプレジャーボート向けに事例がありますが、日本ではまだ“定量データ”が少なく、導入が進んでいません。そのため私は、「神鷹丸」で実際にデータを取り、効果を数値で示すことを目指しています。技術として面白いのは、塗料のような化学薬品を使わず、音という物理的アプローチで海にやさしい点です。



船体に海洋生物による汚れが生じた様子

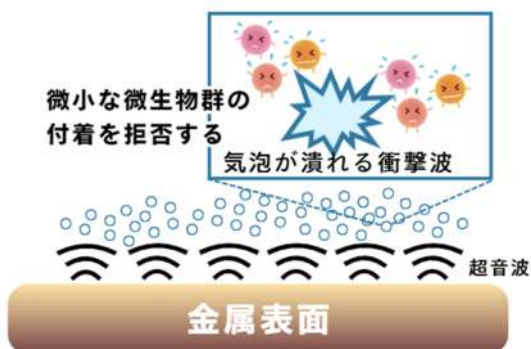
## 実海域での検証準備と、小さな発見の積み重ね

いまは、神鷹丸の船底に装置をどう配置するか、どの出力と発振周期が最適か、そして航行中と停泊中で効果がどう変わるかを検証計画を固めています。

実際の試験では、

- ・ 船体の左右に実験区と対照区を分ける
- ・ 推進電動機の出力のデータを計測する
- ・ 海水温・流速の変化を考慮して解析する

といったアプローチで、できるだけ“実運航に近い形”で効果を評価していく予定です。地味な作業も多いですが、毎回新しい発見があり、海の複雑さを感じております。



超音波で付着を防ぐ仕組み

海はやっぱり教科書通りにはいかない

“海上での試験”に関わると、海という環境がいかにダイナミックで、いかに思い通りにならないかを痛感します。

たとえば、機関室での高温環境に装置を適応させる。船体振動が大きい。海水温が数度違うだけで傾向が変化する

こうした現象を目の前にすると、「海の技術は、海の上でしか磨けない」という当たり前のことを改めて実感します。そして同時に、学生時代に味わった“海から学ぶ感覚”が戻ってきて、開発の大変さよりも、

海に立っていることの楽しさを強く感じています。



神鷹丸に装置を設置している風景

小さくてもコツコツ、海の未来につなげる

超音波防汚はまだ発展途上の技術です。すぐに業界の常識になることはないかもしれませんが、それでも、自分の手でデータを集め、現象を理解し、一歩ずつ形にしていく作業には大きなやりがいがあると感じています。学生時代に学んだ「海を相手にする覚悟」と「技術への興味」は、いまでも自分の背中を押してくれています。これからも、派手ではなくてもコツコツと、海にやさしい技術づくりに挑戦していきます。

またいつか、海の現場でお会いできる日を楽しみにしています。

---

合同会社 海と緑の技術研究所 平賀 和徳



日々勉強！  
結果に責任！

前参議院議員(比例代表 全国区)

# 赤池まさあき

～国づくり、地域づくりは、人づくりから～

自民党 Lib Dems  
Liberal Democrats Party of Japan

国政ニュース

「海の日」7月20日盛大化へ！

## 商船高専5校の練習船更新が5隻！



富山高専「若潮丸」進水式  
令和7年10月23日下関三菱造船で

「海洋教育推進プロジェクト」での海洋国家日本の担い手育成が十年目！

新春に当たり、ご挨拶を申し上げます。昨年七月の参院選では、皆様からお支え頂いたお蔭で、最後まで力を振り絞ることができました。ただ、残念ながら、所属する自民党への大逆風もあり、当選はかなわず、自民党も初の衆参過半数割れという結果に終わりました。参院選後は、党での総括を踏まえ、高市早苗新総裁・新総理が誕生しました。政治の安定と力強い経済成長を取り戻す活動は始まったばかりです。私も活動を継続し、海洋国家日本を前進させるべく、全力を尽くしてまいります。

### ◎海洋教育の推進

十一年前、私が文部科学大臣政務官時代に、海事団体から学習指導要領見直しを要望を頂きました。その実現のため、十年前に官民連携協議会として「海洋教育推進プロジェクト」を設立し、その活動の結果、学習指導要領見直しに繋げ、教科書に海や船の記載が充実するようになりました。

### ◎商船高専練習船の更新

海洋教育推進プロジェクトの活動の一環で、八年前に弓削商船高専を視察したことを契機に、全日本船舶職員協会から商船高専五校の練習船の更新要望を頂きました。富山高専の視察や自民党本部での関係者集會、関係省庁への要望等を実施し、その結果、予算確保を前提に、老齢順に計画的な練習船更新が始まりました。立地地域の要望もあり、防災拠点とすることや、女性の学生の増加に対応して、共通設計で二倍の大きさとする等、各学校の要望も入れられて特色ある練習船が新造されました。

### ◎青森で海洋教育推進

同プロジェクトは、全国各地でも活動を展開しています。昨年は、九月に第三十一回会合を青森市で開催しました。青森には、世界文化遺産の縄文遺跡群があり、その中の一つの三内丸山遺跡を視察しましたが、その縄文中期に千七百年続いた最大級の集落は、海運で成り立っていたことを知りました。

大島商船高専の大島丸、弓削商船高専の弓削丸と更新が進み、昨年は鳥羽商船高専の鳥羽丸が竣工、そして富山高専の若潮丸が進水となりました。今年は、若潮丸の学校への引渡し、そして、五校最後となる広島商船高専広島丸の起工となります。

新練習船効果もあり、各校学生募集も順調とのこと。海洋国家日本の担い手育成に貢献していることを大変嬉しく思っています。

青森での同会合では、内閣府総合海洋政策本部、文部科学省、国土交通省海事局、青森県教育委員会と八戸水産高校、青森市教育委員会と青森北小学校、海事諸団体に参加頂きました。冒頭、青森県教委と青森市教委へ、国や海事団体が作成した資料類をまとめた「海事文庫」の贈呈式を行いました。続いて、内閣府海本部が

【連絡先】  
TEL: 03-6261-9225  
FAX: 03-6261-9251  
contact-office@akaike.com  
https://www.akaike.com  
※郵便物は下記の私設私書箱 (SP601) へお願いいたします  
〒104-8238 東京都中央区  
銀座5-15-1 SP601

【後援会・自民党員募集中！】

活動報告はこちらから  
↓  
活動継続中。



赤池 誠章 (あかいけ まさあき)  
昭和三十  
六年山梨  
生まれ。明  
治大卒。松  
下政経塾  
出身。専門  
学校校長を  
経て、平成  
二十五年の  
参院選比例  
代表(全国  
区)で国政  
復帰。国土  
交通委員  
会理事、文  
部科学委員  
長、自民党  
文部科学部  
会長(三期)、  
内閣府副大臣、  
党政務調査  
会副会長(三  
期)、海事  
振興連盟常  
任理事、海  
事立国推進  
議員連盟事務  
局長等を務  
めた。高市  
総理を顧問  
とする保守  
団結の会共同  
代表世話人、  
海洋教育推  
進プロジェクト  
座長は。



日々勉強！  
結果に責任！

前参議院議員(比例代表 全国区)

**赤池まさあき**

～ 国づくり、地域づくりは、人づくりから～

令和8年(2026年)1月1日(木曜日)

自民党 Lib Dems

国政ニュース

「海の日」7月20日固定化へ!

## 海事普及会の拡大を！学習指導要領は拡充を！



第32回海洋教育推進プロジェクト 11月26日海運ビルで

らは、ポータルサイトや小中学校向けの教材、関係省庁が参加したニッポン学びの海プラットフォームの事業報告を頂きました。

文科省からは、当会の活動の成果である学習指導要領の記載充実、発達段階に応じた取り組み、コミュニケーションや高校のデジタル化支援、商船高専の練習船更新、研究機関との連携、北前船の日本遺産等を報告頂きました。

国交省からは、これも当会

の成果である海洋教育の予算事業や、①CTOSEAプロジェクト、②海の日記念行事、③動画配信、④海事観光の事業紹介があり、東北運輸局からも小中高への取り組み報告を頂きました。

海事諸団体からの報告後には、地元青森県教育委員会の挨拶、そして、県内唯一の八戸水産高校から新しい練習船での授業等の報告を頂きました。生徒募集が順調に推移しており、その理由として、教科書改善等による海洋教育の推進があり、当会の成果が出ているのではとのことでした。

続いて、青森市教育と青森北小の取り組み報告を頂きました。青森港を望む三校統合した青森北小では、総合学習の時間を活用し、積極的に海洋教育を実施しているとのこと。今後の中学校でのキャリア教育推進を期待したいと思えます。

◎海事普及会と指導要領  
昨年十一月、第三十二回目の海洋教育推進プロジェクトを開催しました。

まず、東京海洋大学海事普及会の活動を報告頂きました。同会は、創立六十八年目を迎えた伝統ある部活動であり、部員は七十八名もい

るとのことです。卒業生による海洋会の支援を受け、巡回活動として、各地の学校や海洋少年団に出前講座を行ったり、学内にある我が国最古のプラネタリウムの運営や、学内外の行事へ参加する等しているとのことでした。海事普及会の学生部活動を神戸大や商船高専、海洋系の学校等にも拡大すべく、きだと思えます。

文科省からは次期学習指導要領の検討状況を報告頂きました。前回の改定では、海や船の記載が充実され、それが教科書に反映されましたが、今回の改定では、教師の働き方改革もあり、大綱化、精選化の議論があり、そのことで海や船の記載が減少しないよう、働きかけを強めていきたいと思えます。

◎補正と来年度予算案は  
十二月には今年度補正予算十八兆円が成立しました。その中には、我が国の成長産業とすべく造船業の再生に一千二百億円の基金が創設されました。これにより、造船能力の抜本的向上に必要な生産基盤の強化や先進生産技術の開発・実証を支援します。そして、今後、官民が連携して一兆円の投資を目指すことになりま

す。そうなる造船業を担う人材育成も急務となることから、八大学や工業高校のみならず、商船高専も今まで以上に重要な役割が求められることとなります。

また、同月末には、来年度予算案と税制改正案がまとまりました。

予算項目は、①海事クラスター競争力強化・生産性向上、②海事分野でのGX推進、③海事人材の確保育成、④海上安全対策等の推進、⑤海事振興その他となっております。

さらに、海事関係予算以外でも、①離島航路確保維持、②モーターシフト等の促進、③海事観光推進、④国研経費、⑤海事技術の海外展開、⑥海事行政DX、⑦鉄道運輸支援機構海事助定が盛り込まれています。

また、税制改正案では、①船舶特別償却制度の延長(所得税・法人税)、②海運業の特定事業用資産の買換え特例(所得税・法人税)、③地球温暖化対策税の以上三点の三年間延長があります。

「日本の繁栄は海事振興にあり」をモットーに、引き続き、国と産業界との調整役として、海事振興に全力を尽くしてまいります。(赤池)



## 富山高等専門学校

### ○各種大会・コンテストの全国大会壮行会を行いました

8月1日(金)に、全国大会に出場する下記の団体や個人の壮行会が行われ、校長と学生会長より激励されました。

全国高等専門学校体育大会

・団体種目：卓球(男・女)、バトミントン女子、テニス男子、剣道女子

・個人種目：卓球(男・女)、陸上男子、バトミントン女子、剣道女子、柔道男子、水泳(男・女)

全国高等学校囲碁選手権大会

・男子個人戦

全国高等専門学校プログラミングコンテスト

・競技部門：デジタルメディア創作部

### ○高専プロコンに出場しました

10月11日(土)～10月12日(日)、島根県立産業交流会館くびきメッセにて、第36回全国高等専門学校プログラミングコンテスト本選が開催されました。今回のテーマは「水都で創る、未来のイノベーション」です。射水キャンパス・本郷キャンパスからそれぞれ1チームが競技部門に出場しました。

### ○東海北陸地区の高専英語プレコンで本校学生が優勝しました

11月8日(土)に、第19回東海北陸地区高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストがオンラインで実施され、国際ビジネス学科の4年生が優勝しました。2026年1月24日(土)、25日(日)に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催される全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストに参加予定です。

高専プレコンは、全国の高等専門学校における学生の英語表現力の向上、並びに学校間の親睦・交流を図り、もって国際感覚豊かな人材の育成に寄与することを目的とするコンテストで、シングル部門・チーム部門でそれぞれ、各高専が工夫を凝らしたテーマでプレゼンテーションを競います。

### ○各種講演会・講習会を開催しました

・9月26日(金)健康に関する講演会：

2年生を対象に、富山県警察本部少年サポートセンター員をお招きし、薬物乱用防止に関するご講演をいただきました。

・10月2日(木)消費者問題に関する講習会：

3年生を対象に、弁護士法人本田総合法律事務所富山事務所より講師をお招きし、消費者トラブルに関する講習を実施していただきました。

・11月12日(水)性教育に関する講演会：

1年生を対象に、本校体育主任の教員より、性感染症の予防に関する健康教育について講演を行いました。



健康に関する講演会



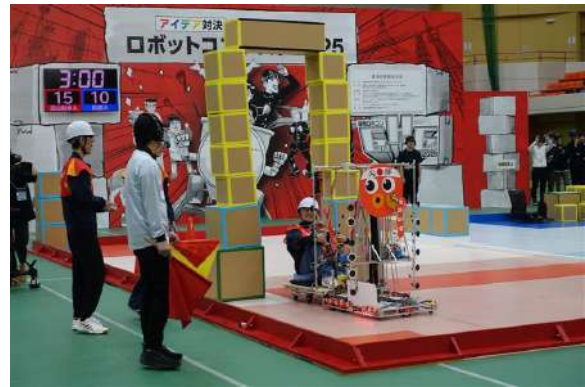
消費者問題に関する講習会



性教育に関する講演会

○【快挙！】全国高等専門学校ロボットコンテスト  
 東北北陸地区大会で優勝・全国大会ベスト8

10月5日（日）に開催された、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト東北北陸地区大会「Great High Gate」において、昨年引き続き、本校射水キャンパス メカトロ技術研究部のAチーム プロジェクト名「ゲートパス」が優勝、本郷キャンパス メカテック部のBチーム 「カニメイト」がアイデア賞を受賞し、全国大会に出場を決めました。さらに、射水キャンパス メカトロ技術研究部のBチーム 「DEED DONE」が特別賞を受賞しました。当日は400名近くの観客が来場し、会場は選手・観客の熱い熱気に包まれました。11月16日に東京の両国国技館で開催された全国大会では、射水キャンパスAチームの「ゲートパス」がベスト8に進出する高成績を収めました。全国大会の様子は、12月15日（日）14:00～14:54 NHK総合にて放映されます。



地区大会の様子①



地区大会の様子②



全国大会の様子①



全国大会の様子②

#### ○4代目若潮丸回航

1995年9月に就航した本校練習船の4代目「若潮丸」が、練習船としての役割を引退し、新しい運航先へと回航されました。就航から30年にわたり、商船学科の乗船実習・実験実習を担うとともに、本校学生のオリエンテーション、地域の子どもたちや一般の方々向けの体験乗船や研修、災害支援等に活用され、船舶職員養成の使命を果たすと共に、地域貢献にも取り組んできました。また、本科生の卒業研究や専攻科生の特別研究、企業との共同研究や教員の調査研究などを通じた、学術への貢献の大きさも計り知れません。これまで安全に運航していただき、誠にありがとうございました。



新湊大橋をくぐる4代目若潮丸



富山新港を後にする4代目若潮丸

#### ○本校練習船5代目「若潮丸」の命名・進水式を行いました

10月23日（木）、来春の就航を目指して建造中の5代目本校練習船の命名・進水式が、三菱重工業下関造船所江浦工場（山口県下関市）にて行われ、商船学科5年生の33名、射水キャンパス学生会の3名、本郷キャンパス学生会の3名が参加しました。高専機構の谷口理事長により新たに「若潮丸」と命名された新造船は秋空の下、船体をつないでいる支綱を斧で断ち切られるとゆっくりと動

きだし、船首に飾られたくす玉が割られ、色とりどりのテープ、紙吹雪、風船が舞い、花火が上がる中、ブラスバンドの演奏と歓声と拍手に送られ、船尾から豪快に進水しました。今後は、艀装工事、試運転などを経て来年の3月に本校へ引き渡され、実習や調査研究、海洋人材の育成、地域社会貢献等に取り組めます。



命名・進水式の様子①



命名・進水式の様子②



命名・進水式の様子③

<学生会活動>

### ○海浜清掃

9月17日(水)に、学生会及び美化委員会が主催して、射水キャンパスの電子情報工学科、国際ビジネス学科、商船学科の各学科2年生による海浜清掃を行い、地域の環境を守る大切な活動に全員で協力して取り組みました。収集したゴミは、最後に学生会が分別を確認して処分しました。

### ○秋季スポーツ大会を開催しました

10月15日(水)に学生会主催で秋季スポーツ大会を開催しました。スポーツに夢中になる！をコンセプトに、スポーツを通じて普段関わらない生徒との交流をはかり、親睦を深めることを目的として計画されました。サッカー、ビーチバレー、ドッチビー、バスケットボールの4種目が行われ、秋空のもと学生はのびのびと楽しんでいる様子でした。



ビーチバレー



ドッチビー

### ○高専フェスを開催しました

10月29日(水)に今年度の「高専フェス」を開催しました。軽音楽同好会およびフリースタイルダンス部、また、有志のグループや個人によるパフォーマンスが披露され、日頃の文化活動を発表

する場として意義深いものとなりました。また、10月6日(月)から実施していた1か月の研修で本校を訪れていたタイ高専(KOSEN-KMITL)の留学生たちも参加し、素敵なパフォーマンスで会場を大いに盛り上げました。



タイ高専学生のパフォーマンス



フェスを盛り上げる学生達

(学生主事補 商船学科 福留研一)

### ○「洋上救命講習」を実施

今年度の「洋上救命講習」が7月9日（水）に実施され、商船学科4年生38名が洋上での救命技術を体得することを目的とする本講習に参加しました。午前中には着衣のまま救命胴衣を着用した状態で総員退船時を想定した実習が行われました。まずは練習船「若潮丸」に備え付けられた救命筏の投下方法の説明および実際に投下が行われました。その後には学生は若潮丸の左舷側から4m下へ一人ずつ飛び込みを実施しました。飛び込み後に救命筏を目指しての着衣水泳を行い、救命筏に乗り込んだ後に再び若潮丸に泳いで戻り、若潮丸の船尾側に設置されたライフネットや縄梯子を登り、帰還しました。学生によっては肉体的、体力的にかなりきつい実習になったと思いますが、この実習が現時点での自身の身体能力に目を向ける機会になればと思います。午後からは遭難時を想定した各種信号の打ち上げ実習も行われました。将来にわたって学生たちが本講習の想定するような状況に遭遇しないことを祈りつつ、もしものときに今回の経験が学生たちの身を守ることに繋がればと思います。



1. 若潮丸からの飛び込み



2. 飛び込み後の着衣水泳



3. ライフネットや縄梯子での帰還

### ○夏季オープンキャンパスおよび若潮丸サヨナラセレモニー

今年度は8月2日（土）～4日（月）の3日間で夏季オープンキャンパスを実施しました。学校全体としては開催3日間で600名を超える中学生に参加いただきました。商船学科のある射水キャンパスでは参加した中学生は最初の全体説明会で商船学科を含めた学校全体の説明を受けた後、希望した各学科の体験講座を受講しました。商船学科ではオープンキャンパスの体験講座として、本校施設の臨海実習場へ来場してもらい、練習船「若潮丸」を会場として色々な体験を経験してもらう機会としました。

8月2日（土）は臨海実習場に停泊した若潮丸船内において「練習船若潮丸見学と船内での体験講座」と題し、班に分かれて船内施設見学、チャートワーク体験講座、機関室での体験授業等を実施しました。

また、3日（日）・4日（月）は若潮丸で実際に航海を行い、出入港時および航海中の海や港を見学する体験航海「若潮丸に乗って船・港・海の仕事を見てみよう」を行いました。航海中に船内見学も行い、中学生にとっては運航中の船内でどのように船を操っているのかを知る貴重な機会になったと思われます。また、航海をすること自体が初めてという参加者が多いと思われ、とても楽しんでいる様子が伺えました。

参加者は船内の様子や機器を実際に見学し、体験講座および体験航海を通して乗組員、商船学科教員、補助学生との交流によって船員の業務や船の魅力について理解を深めてもらう良い機会となったかと思います。

商船学科の体験講座では3日間で約90名の中学生に参加いただき、盛況のうちに終了しました。



4. 若潮丸への乗船の様子



5. 機関室での体験授業



6. 若潮丸での体験航海

また、この夏季オープンキャンパスでの航海が現行の若潮丸における最後の業務となりました。現行の若潮丸は30年にわたって運用され、これをもって無事故で運航が終了することになりました。そして来年度からは新造された新若潮丸での業務が始まることとなります。これを記念して夏

季オープンキャンパス最終日の8月4日の最終航海後、お世話になった若潮丸のサヨナラセレモニーを関係者で行いました。運航に尽力していただいた若潮丸乗組員へ國枝校長より感謝の言葉と花束が贈呈され、金山船長より新若潮丸でも安全運航を心がけますというお言葉をいただきました。



7. 若潮丸サヨナラセレモニー

#### ○商船学科4年生の長期乗船実習と後学期授業開始

10月1日(水)に商船学科4年生が5ヶ月間の長期乗船実習のため日本丸と銀河丸に分かれて乗船しました。商船学科3年生時の1ヶ月間の長期乗船実習について2回目の長期乗船実習となります。これまで以上に長い期間の実習のため不安もあるとは思いますが、学生たちがこれまでの勉学の成果をこの実習で発揮し、さらなる飛躍をなし得ることを期待しています。これより就職活動も本格化していく時期にもなっています。各々の学生がこの長期乗船実習において得難い経験を積み、将来の自分をより鮮明に思い描けるようになることを願っております。

また、10月1日(水)には専攻科海事システム工学専攻の入学式があり、新たに3名の学生が入学しました。専攻科でより専門的な知識を学び、将来に向けて大きく前進していくことを期待しています。

後学期の授業も始まりました。座学や実習、資格取得等に各学生ともに励んでおります。席上課程が残り半年となった商船学科5年生は授業と卒業研究の両方に取り組んでいくこととなります。

(教務主事補 商船学科 清野義敬)

# 北斗会だより

北斗会事務局 水谷 淳之介 記

## 【新練習船若潮丸の命名・進水式が行われました】

令和7年10月23日（木）、山口県下関市の三菱造船株式会社 下関造船所 江浦工場において、新練習船「若潮丸」の命名・進水式が挙行されました。支綱切断は本校商船学科5年の森下紗也子さん、船木万莉さんと商船学科3年の冨水琉花さんの3名が行い、北斗会からはE32 玉川宏会長、D6 石田勝志富山支部長、商船学科5年のクラスの学生も出席して、新若潮丸の誕生の瞬間を見守りました。記念祝賀会では國枝校長の開会の挨拶に続き田畑衆議院議員、衛藤前衆議院議員、赤池前参議院議員、広重全船協会会長より祝辞をいただき、鏡開きのあと、玉川北斗会会長による乾杯の発声で宴が始まりました。本船は今後艀装工事、試運転などを経て令和8年3月に竣工の予定です。

## 【母校の高専ロボコンチームを支援しました】

### ○東海北陸地区大会

高専ロボコン 2025 の東海北陸地区大会が10月5日(日)に富山市八尾スポーツアリーナで開催されました。

富山高専射水キャンパスからは A チーム「ゲートパス」、B チーム「DEED DONE」が出場し、A チームは最高得点の 305 点を獲得し、昨年に続き 2 連覇を果たし、11/16 に両国国技館で開催される全国大会に駒を進めました。また、B チームは東京エレクトロン様からの特別賞を受賞しました。

全国大会に先立ち、10月30日にE32 玉川宏北斗会会長が母校のメカトロ技術研究部を訪問し、お祝いを渡して部員を激励しました。



地区大会の様子



玉川会長による激励

### ○全国大会

高専ロボコン 2025 の全国大会が11月16日(日)に東京両国国技館で開催され、富山高専射水キャンパス「ゲートパス」チームは3回戦まで勝ち進み(ベスト8)健闘しましたが、準優勝・ロボコン大賞を受賞した熊本高専(熊本キャンパス)に惜敗しました。会場では北斗会関東支部会員も応援に駆け付け、N77 杉本和重関東支部長から激励金が手渡されました。



ロボコン全国大会 1回戦



ロボコン全国大会  
ロボコンチームと関東支部応援団



# 鳥羽商船高等専門学校

## ◆大阪・関西万博 2025 EXPO 共鳴フェス「高専未来チャレンジ」に出展しました。

鳥羽商船高等専門学校（以下、鳥羽商船高専）は、令和7年6月18日（水）～19日（木）に大阪市此花区夢洲で開催された大阪・関西万博 2025 EXPO 共鳴フェス「高専未来チャレンジ」に出展しました。

今回、鳥羽商船高専は、商船学科5年生3名と教職員7名を派遣し、最新の練習船の魅力を紹介しました。本校が保有する最大の練習船「鳥羽丸」は、令和7年3月14日に竣工したばかりで、遠隔操船システムや、練習船として初めて搭載された自律航行システムなど、最先端の設備を備えた最新鋭の船です。デジタル化された航海計器や独自に設計したコックピット型操舵室もあり、これからの時代・未来に活躍する航海士・機関士の育成を見据えて設計されています。さらに、災害時には支援船としても活用できる設備を備えており、多機能な船としての活用が期待されています。

出展ブースでは、新しい練習船「鳥羽丸」の模型や、遠隔操船システムを再現したコーナーを設け、最新の練習船の魅力を紹介しました。模型を見た参加者からは、「普段見る船は海に浮かんでいるため、船の底がどんな形をしているのか分からなかったが、この模型で知ることができ、勉強になった」との感想がありました。また、学生や教職員が練習船の特長や魅力、海事技術者の活躍について、参加者に直接説明しました。学生たちと会話していた参加者からは、「鳥羽丸にはどんな設備があるのか？」「どんな環境で勉強しているのか？」「ここで学んだ学生はどんなところで働いているのか？」といった質問が寄せられ、学生や教員が丁寧に回答していました。

今回の出展では、2日間で延べ1,000人を超える方々にご来場いただき、船の魅力や、そこで学ぶ学生たち、そして未来の海事技術者について広く知っていただく貴重な機会となりました。参加した教職員からは、「予想以上に多くの

来場者があり驚くとともに、多くの方が船や学生に興味を持ってくださったことが嬉しかった。普段、船やそれを操る技術者の存在、そしてその技術者を育てる学校の存在を知る機会は多くないと思うので、今回の出展を通じて少しでも多くの方に魅力が伝わっていたら嬉しい」との声がありました。



## ◆商船学科5年生航海コースの学生が練習船大島丸を訪れて見学しました。

令和7年6月19日(木)、鳥羽商船高等専門学校商船学科5年生航海コースの学生が大島商船高等専門学校（以下、大島商船高専）の練習船「大島丸」を訪れ、船内を見学しました。

この訪問と見学は、本校の練習船「鳥羽丸」が神戸港に寄港した際、同じく神戸港に寄港していた大島商船高専の練習船「大島丸」と隣接して停

泊する機会があったことから、「大島丸」中村船長のご厚意により実現したものです。

練習船「大島丸」は、大島商船高専が保有する練習船で、令和5年3月に竣工しました。山口県の三菱造船株式会社で建造されました。「大島丸」は、商船系高専シリーズ船の1番船として建造され、「鳥羽丸」は3番船として建造されています。商船高専が順次進めている練習船の新造では、基本的なサイズやコンセプトは共通していますが、各校の教職員のアイデアが随所に取り入れられており、それぞれの実習海域に適した設備や工夫が施されています。

今回は、練習船大島丸の中村船長に船内をご案内いただきました。本校学生は、中村船長から、バッテリーハイブリッド電機推進システムやゲートラダー、広々としたデッキ・通路、明るい船内教室やロールスクリーンを採用した窓、監視のしやすさを考慮した操舵室等、「鳥羽丸」とは異なる特長について説明を受け、熱心に耳を傾けながら質問していました。

「大島丸」見学を終えた本校学生は「実習海域のちがいや各高専の考え方によって色々な特長があることを知り、勉強になった。それぞれの練習船が建造された造船所の特長も活かされている点がとても興味深かった」等と感想を述べました。



#### ◆練習船鳥羽丸が神戸港に寄港し、一般公開を実施しました。

鳥羽商船高等専門学校は、令和7年6月、練習船鳥羽丸を神戸港に寄港させ、一般公開を実施しました。

この公開は、本校が大阪・関西万博 EXPO 共鳴フェス「高専未来チャレンジ」に出展したことに合わせて企画されたもので、令和7年6月18日(水)、19日(木)、25日(水)、26日(木)の合計4日間にわたり行われました。

今回の一般公開は、商船学科5年生の実習も兼ねて実施されたものであり、学生は三重県鳥羽市池の浦にある練習船鳥羽丸の棧橋と神戸港との間を、片道約1日かけて操船しました。

一般公開では、船橋、機関制御室、エンジンルーム、船内教室や居室などを来場者に紹介しました。練習船鳥羽丸は、今年3月に竣工したばかりの新しい練習船であり、デジタル化された計器やコックピット型の操舵室、遠隔操船システム、練習船として初めて搭載された自律航行システム、災害時の支援船としても活用できるよう工夫された設備などを備えています。学生たちは、一般公開に先立ち、見学経路や説明方法、安全面の確認などについて話し合い、練習船鳥羽丸の特長や魅力を十分に伝えるための工夫を凝らしました。

平日に実施された一般公開でしたが、今回の一般公開では合計640名の方に見学していただきました。見学者からは「学生に案内してもらい、船の見学を楽しむことができました。操舵室やエンジンルームを普段見る機会がないので、とても貴重な体験でした」、「昔見たことのある船とは異なり、船がこれほど進化していることに驚きました。とてもおもしろく、見学することができてよかったです」、「学生の元気な挨拶や丁寧な説明が、船内見学をより良いものにしていました。夢に向かって頑張してほしい」という感想をいただきました。

また、学生は実習を振り返り、「あっという間で楽しい実習だった。海外の方を案内した経験は貴重で、英語でコミュニケーションをとることができて嬉しかった」、「万博に行った方が、練習船鳥羽丸にも来てくれて嬉しかった」、「積極的に呼び込みしたことや、トランシーバーを使って状況を共有したことで対応がスムーズにできたことがよかった、今後の一般公開にも活用したい」、「経路案内

が複雑な場所もあり、見学者が迷うこともあった。今後は、案内表示を増やしたり、案内役の学生を配置する等の工夫が必要かもしれない」と話しました。

大阪・関西万博を視察後、神戸港から池の浦まで学生・教職員と共に乗船した古山校長は「万博会場で、学生が来場者に練習船鳥羽丸のことや学校のことを丁寧に紹介している姿はとても良かった。おかげで、本校の出展ブースには多くの方に来ていただき、実際に鳥羽丸を見に来てくれる人もいた。また、万博の公式 SNS においても学生が紹介され、多くの人の目に触れたと思う。学生の活躍を労いたい」と講評を述べました。



#### ◆商船学科4年生の授業科目「キャリアデザイン」において、日本郵船株式会社による企業紹介が実施されました。

令和7年6月25日（水）、鳥羽商船高等専門学校において、日本郵船株式会社による企業紹介が実施され、商船学科4年生が参加しました。

本校では、学生の就職活動を支援することを目的に、商船学科および情報機械システム工学科の両学科で授業科目「キャリアデザイン」を設置しています。この授業では、自分の適性や志向を把握し、自分の考えや意見を発信する力を養うとともに、意見交換や発表のスキルを身に付けること、さらには、さまざまな業種や職種について知り、企業の特徴を理解することが求められます。そのため、本校では企業が来校して学生に直接説明する機会を多く設けています。

今回来校したのは日本郵船株式会社で、商船学科で航海士や機関士を目指す学生を対象に、企業紹介やインターンシップの案内が行われました。また、同社船に乗船し、実習に参加している本校実習生が話をする場面もありました。志望動機や

面接時の様子、実習での体験などについて話があり、学生たちは熱心に耳を傾けていました。



#### ◆英国スコットランドのグラスゴー市立大学長と副学長が本校を視察しました。

令和7年8月25日(月)、英国スコットランドにあるグラスゴー市立大学 (City of Glasgow College) の Dr. Paul Little 学長兼最高経営責任者と Carla Gethin 副学長が、鳥羽商船高等専門学校を視察しました。

グラスゴー市立大学は、2010年に Central College、Glasgow Metropolitan College、Glasgow College of Nautical Studies の3校が統合して設立された、スコットランド最大の技術教育機関です。造船や金属、機器産業で発展してきた都市グラスゴーを拠点に、海事を含む幅広い技術分野で人材育成を行っています。

両氏は、英国海軍航空母艦「プリンス・オブ・ウェールズ」で開催される国際会議「Pacific Future Forum 2025」(8月29日～30日)に出席するため来日し、その機会を活かして本校を訪問されました。Little 学長は、日本の商船や港湾のレジリエンスへの取り組み、また海事教育や訓練に強い関心を寄せています。

視察では、まず本校の教育課程や取得可能な資格等について意見交換を行い、英国と日本の海事教育のちがいについて理解を深めました。次いで、両氏は練習船「鳥羽丸」を見学し、船内機器

や設備について齊心俊憲 船長、山野武彦 機関長が説明しました。齊心船長は「学生の将来を考えて設計・整備した点を評価いただけてうれしい」と述べました。

さらに、操船シミュレータや荒天航泊施設、遠隔操船システムなども紹介し、乗船実習以外の教育環境をご覧いただきました。対応した商船学科山田智貴 教授は「日本は英国や仏国を手本に海事教育を発展させてきました。今回の視察で、産学連携による遠隔操船や自律航行システムの開発を評価いただけたのは大きな成果だと思う」と話しました。

Little 学長は「日本の海事教育は非常に興味深い。国の支援も厚く、各教育機関が練習船を保有し訓練を行っていることに驚いた。遠隔操船や自律航行の教育は将来に向けて重要であり、日本企業との連携も素晴らしい」と述べました。Gethin 副学長も「新しい練習船を見学でき、学びが多かった。今回の訪問が今後の強く持続的な協力関係の出発点になることを願う」と話しました。

最後に、鎌田功一 商船学科長は「英国と日本の海事教育の違いを直接伺うことができ、とても刺激になった。本校が学ぶべき点もあると感じた」と感想を述べました。



## ◆鳥羽商船高等専門学校 創基 150 周年記念式典と記念講演会を挙行了しました。

鳥羽商船高等専門学校は、令和 7 年 9 月 13 日、鳥羽市民体育館サブアリーナにおいて、鳥羽商船高等専門学校創基 150 周年記念式典を挙行了しました。

本校は、明治六大教育家のひとりである近藤真琴翁が創設した、日本で最初の船員養成機関「航海測量習練所」を起源としています。この習練所は、明治 8 年（1875 年）9 月 14 日に教育機関のひとつとして攻玉社の分校に認可されました。この日を基点とし、令和 7 年 9 月 14 日をもって本校は創基 150 周年を迎えました。

式典では、まず古山雄一校長が「本校が 150 年という長きにわたり存続してきたことは、地域の皆さまをはじめ、多くの方々の深いご理解と温かいご支援の賜物です。改めて心より感謝と敬意を表します。今後もこの地に在り続け、社会的使命を果たしていくために、変化を恐れず新たな技術に挑みつつ、先人から受け継いだ良き伝統を守り継ぎ、有為な人材の育成に邁進します」と式辞を述べました。

続いて、鈴木英敬衆議院議員、山本佐知子参議院議員、一見勝之三重県知事、小竹篤鳥羽市長より祝辞をいただき、山本凌久本校学生会長が挨拶を述べました。最後に、国立高等専門学校機構谷口功理事長から謝辞が述べられ、式典は厳かに締めくくられました。



## ◆令和 7 年度 商船学科卒業証書授与式・専攻科海事システム学専攻修了証書授与式を挙行了しました。

鳥羽商船高等専門学校は、令和 7 年 9 月 19 日（金）、第 54 回商船学科卒業証書授与式並びに第 18 回専攻科海事システム学専攻修了証書授与式を挙行了しました。

式には、卒業生 36 名、修了生 4 名、その保護者、来賓および教職員が参加しました。まず、古山雄一校長より卒業生に卒業証書、修了生に修了証書および学位記が授与されました。

古山校長は式辞の中で、「卒業生や修了生のみなさんは未曾有の事態に直面しながらも、その困難を乗り越えてきました。マリタイム技術者としての強靭さを身に付け、今後はその実力を存分に発揮してください。中学 3 年生という若き日に下された進路の決断と、今日までの不断の努力に敬意を表します。自信と信念を胸に、自らの人生を堂々と歩まれんことを心より祈念します」と述べました。続いて、来賓として小竹篤鳥羽市長、菅沼延之同窓会長・全日本船舶職員協会副会長より祝辞をいただきました。

在校生代表は「力強く、前を向き、日々前身し続ける先輩方の逞しい背中、後輩である私たちにたくさんの気づきと情熱を与えてくれました。先輩方が本校のことを『母校』だと胸を張って言えるよう、私たち在校生一同は絶え間ない努力と情熱をもって本校を引っ張っていきます」と述べ、決意を表しました。

これに応え、卒業生代表は「5 年半という月日のすべてが大切で、かけがえのない思い出であり私たちの青春でした。そして、ここで過ごした日々や大切な仲間存在は、これから日本海運を支えるため大海原に乗り出す私たちの取るべき航

路を決める糧となり、前に進むための推進力になるでしょう」と鳥羽商船高専での学生生活を振り返り、在校生に「大きな波にぶつかっても、仲間・家族、教員、先輩を頼って乗り越えてください。いつかここに立つ日が来たときは、悔いなく笑顔で満ち溢れていることを心より祈っています」と答辞を述べました。

また、修了生代表は「学びを深めるために進学した2年間は、船舶に限らず幅広い分野から刺激を受け、多角的な視点を身に付けることができた充実した時間となりました。今後も、飽くなき探求心、知識と技術を求め続け、日本海運業界を発展させていく人材として社会に貢献していきます」と挨拶を述べました。

最後に、卒業生は学び舎前の広場に移動し、登壇礼（とうしょうれい）にならった儀式を行いました。「ごきげんよう」と三唱したあと、制帽を空高く投げ、本校を巣立ちました。



(商船学科航海コース 齊心 俊憲 記)

## ◆鳥羽商船高等専門学校 創基 150 周年記念式典 古山校長の挨拶

令和7年（2025年）は創基より数えて150年の節目の年にあたり、「創基150周年記念式典」を挙行しました。創立以来、本校は常に時代の要請に応え、学科の新設・改組を重ね、平成17年（2005年）には専攻科「海事システム学専攻」および「生産システム工学専攻」を設置し、令和元年（2019年）には「商船学科」および「情報機械システム工学科」の二学科体制へと移行いたしました。令和7年3月には、練習船「鳥羽丸」および新浮棧橋が竣工し、教育・実習環境の一層の充実が図られました。また、令和5年には、成長分野を牽引する大学・高専の機能強化を目的とした支援事業に採択され、令和7年4月には「高度情報工学コース」を新設し、本年度より新入生の受け入れを開始しました。情報分野での高度かつ最新の教育を行い、新しい人財を育成していきます。

これまでに本校を巣立った卒業生・修了生は、延べ8,164名にのぼり、海事・海洋・情報・電気電子・機械等の諸分野において、GX（グリーントランスフォーメーション）やDX（デジタルトランスフォーメーション）を見据えた成長産業を支える中核的人財として、国内外において多大なる貢献を果たしてきました。

今後も本校が鳥羽の地に在り続け、社会的使命を果たしていくためには、変化を恐れず新たな技術に果敢に挑む姿勢と、先人より受け継がれた良き伝統を守り継ぐ精神とを併せ持ち、人財育成に邁進することが肝要です。有為なる人財を社会に送り出し続ける限り、本校の存在意義は揺るぎなく、未来永劫にわたり輝き続けるものと確信します。

令和7年度、独立行政法人国立高等専門学校機構 鳥羽商船高等専門学校 第54回「商船学科卒業証書授与式」並びに第18回専攻科「海事システム学専攻修了証書授与式」が行われました。卒業生、修了生の進路は、船舶職員、海事技術者、エンジニアとして、海運・海事分野のみならず、海洋資源の調査・探査等、多岐にわたる可能性を秘めています。

皆さんのこれからの人生には、喜びもあれば試練もあることでしょう。「人間万事塞翁が馬」、一喜一憂することなく、泰然自若として歩まれますようお願いしています。一見困難に見える出来事も、実は

新たな機会の到来であるかもしれません。嬉しき時も、悩める時も、皆様は決して独りではありません。本日ここに集う友人、保護者、教職員、先輩方、後輩たち、そして8000余名に及ぶ同窓生との絆を、どうか大切に育んでください。

創基 150 年を迎えた本校が掲げる教育理念は、「進取、礼譲、質実剛健」です。自信と信念を胸に、自らの人生を堂々と歩まれんことを、心より祈念いたします。

150 年という節目を迎えた本校は「海と技術の未来を拓く」教育・研究機関として、地域社会とともに歩んでいきます。今後も、教育・研究・地域貢献の三本柱を軸に、より魅力ある学校づくりを進めていきたいと考えています。

校長 古山雄一 記)

## 鳥羽商船同窓会だより

### 母校創基 150 周年

### 同窓会設立 100 周年

暑く長い夏が終わったと思えば短い秋が終わりそうです。

本年は鳥羽商船創基 150 周年、同窓会設立 100 周年の記念すべき年です。

夏の暑さの残る 9 月 13 日(土)、鳥羽市のサブアリーナに於いて母校創基 150 周年の記念式典が開催されました。文科省、高専機構をはじめ鈴木英敬衆議院議員、山本さち子参議院議員、一見勝之三重県知事、服部富男三重県議会議員、小竹篤鳥羽市長、河村孝鳥羽市議会議員他多くの来賓と母校関係者他、計 180 名あまりの皆様に参加していただき盛大に催されました。式典会場入り口には同窓会設立 100 周年記念事業の一つとして同窓会有志により修復された大正時代の練習帆船「あまき」模型が展示され母校の歴史を皆様に感じていただけたと思います。



この修復された模型は、母校百周年記念資料館一階の資料室に展示されています。

母校創基 150 周年記念式典終了後、鳥羽国際ホテルに移動し、同窓会設立 100 周年のお祝いも共に催されました。祝賀会は式典の来賓の他、母校の教職員、攻玉社学園境理事長、同窓会の会員も多数出席され 150 名あまりの祝宴となりました。アトラクションの

女性弦楽4重奏団の演奏とおいしい料理に各テーブル賑やかに歓談していました。



また前日の12日(金)には母校の近藤真琴翁記念碑前に於いて金比羅宮鳥羽分社の富田宮司の奏上で物故者慰霊債の後、母校創基150周年、同窓会設立100周年の祭祀が行われました。古山校長以下副会長と母校の皆様、同窓会から菅沼会長以下役員、会員の皆様26名あまりが参列し、近藤翁に報告いたしました。



### 令和7年度 卒業式(本科N,E) 修了式(専攻科 海事) 挙行

9月19日(金)、母校商船学科本科卒業式と専攻科海事システム学専攻の修了式が挙行されました。本科航海コース21名、機関コース15名、専攻科海事システム学専攻4名が母校を巣立ちました。

今年の進路は海上職35名、陸上職1名、進学5名で海国日本の未来に明るい希望を照らしました。



卒業式終了後の祝賀パーティでは菅沼会長と三井伊勢志摩支部長の心強いエールが若鷹たちに送られました。



また情報機械システム工学科は全国高専プログラミングコンテストの課題部門でも2年連続最優秀賞を受賞しました。工業系が統合した情報機械システム工学科の成果が目に見えて現れてきました。これからの母校の益々の活躍を期待します。

鳥羽商船同窓会事務局



# 広島商船高等専門学校

## ○第44回全国高校生読書体験記コンクール 優秀賞受賞

第44回全国高校生読書体験記コンクールにおいて、流通情報工学科3年の近藤瑚々さんが優良賞を受賞しました。

全国47都道府県399校、60,493編の応募のなか、39名の受賞者のうちの1名となり、非常に優れた体験記を執筆されました。

また、優良賞受賞校には「集英社文庫50冊セット」が贈呈される予定です。



## ○2月25日(火)叡智学園卒業クルーズを実施

叡智学園の島親が主催する「卒業クルーズ」を練習船広島丸で実施しました。

当日は46名の方が乗船し、広島丸の船内や普段はあまり見られない機関室などの見学や、操船体験を行いました。

船の上から見える大崎上島の景色を楽しみ、良い思い出となったようです。



## ○2月19日(水)産業振興交流会事業「最先端企業見学会」を開催

産業振興交流会による先端企業見学会を開催し、株式会社日本クライメイトシステムズ(広島県東広島市)を訪問しました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和元年度以来5年ぶりに開催された本見学会は、会員の親睦を深め、先端企業の技術や取り組みについて学ぶことを目的としています。今年度は、本校学生3名も見学会に同行しました。

今回見学させていただいた企業は、主にマツダ車の空調システムの開発・製造、EV車用の省エネタイプの空調やバッテリーの冷却システムの開発に力を入れています。最新の設備を見学させていただき、品質向上への取り組みや、グローバル展開等の知見を得ることができ、大変有意義な見学会となりました。

## ○3月7日(金)卒業証書・修了証書授与式を挙

電子制御工学科・流通情報工学科卒業式、産業システム工学専攻修了式を挙

行了しました。(電子制御工学科39名、流通情報工学科38名、産業システム工学専攻5名)

逸見校長の手から、卒業生・修了生一人ひとりに証書授与が行われました。校長は自身の失敗談を通じ、「一所懸命に生きること。誠実に生きること。人の気持ちを考えて行動すること」の三つの教訓をお話しされました。

在校生代表からは商船祭やクラスマッチなどの思い出を振り返り、別れを惜しむ送辞がありました。

春の気配を感じられるこの頃、大きく育った学生たちは保護者・教職員に見送られ、本校を巣立っていきました。



#### ○4月6日(日)入学式を挙行

穏やかな春の陽気の下、1年生139名、編入学生1名、留学生1名、専攻科産業システム工学専攻4名が入学しました。

逸見校長からは「しっかり食事をとり、部活や勉強に全力で取り組んでほしい。そして優しさと誠実さを大切に、責任感を持って自由に生きてほしい」と式辞があり、商船学科 川俣学生が新入生総代として宣誓を行いました。

また、学生会長から「学生主体の環境を積極的に利用し、活気あふれる学校を一緒に作っていきましょう」と歓迎の挨拶がありました。



#### ○大崎上島中学校研修を実施

4月18日(金)に大崎上島中学校の1年生27名の研修を受け入れました。本校では毎年恒例のイベントとなっています。地元の中学生に本校を身近に感じてもらうべく高専とは何かをはじめとする全体説明からスタートし、広島丸船内見学や、技術教育センター棟を見学してもらいました。

参加者にとって、本校が将来の進路の選択肢の一つとして考えてもらえるきっかけになればと思います。



#### ○学生会役員・寮生会役員の任命式を実施

5月27日(火)、令和7年度の学生会役員8名と寮生会役員10名の任命式を実施しました。

逸見校長より任命書が授与され、一人ひとりが今年度の抱負を述べました。

校長からは、「学生会には学校代表として学校を盛り上げてもらい、寮生会には学生が自治統制できるように力を貸して欲しい。」と激励の言葉があり、役員の子供たちは、改めて気持ちを引き締めた様子でした。

#### ○大崎上島町立東野小学校海洋環境教室を実施

6月4日(水)本校の練習船広島丸で、大崎上島町立東野小学校の児童を対象に海洋環境教室を開催しました。小学4年生を対象に「ふるさとの豊かな海を守っていくために自分たちのできることを考える」をテーマに、瀬戸内海に生息するアマモについて学び、海の水質を調べるパックテストやシーカヤックを体験するプログラムを実施しました。参加してくれた児童にはふるさとの海を楽しく学ぶ貴重な体験となったようです。



### ○令和7年度進学説明会(東広島)を開催

6月7日(土)に中学生を対象に令和7年度進学説明会を東広島商工会議所で開催しました。当日は校長あいさつに始まり、学校の全体説明、各学科の説明及び個別相談が行われました。学生が自身の体験をもとに説明した学科説明や個別相談には参加者は特に熱心に聞き入っていました。

### ○6月5日(木)前期クラスマッチ開催

校内にて令和7年度クラスマッチが実施されました。当日は天候にも恵まれ、予定されていたすべての競技が無事に行われました。リレーや綱引き、ドッジボール、カードゲームなど、さまざまな種目に学生たちは真剣に取り組み、クラスの仲間と協力しながら競技を楽しむ姿が見られました。

また、足の速さや肩の強さを競う個人種目も実施され、それぞれの得意分野で力を発揮する場面も多く見られました。競技を通じて、学年を越えた交流やクラス内の団結が深まり、充実した一日となりました。大きなトラブルもなく、全体を通して円滑に進行されました。



### ○第51回瀬戸内商船高等専門学校2校定期戦

6月14日(土)に、本校及び弓削商船高等専門学校を会場として、第51回瀬戸内商船高等専門学校2校定期戦を開催しました。

当日は荒天予報でしたが、大雨に見舞われることなく、各会場で熱戦が繰り広げられました。

## 【2校定期戦結果】

【広島会場】

種目		広島	-	弓削	
卓球	○	9	-	1	×
サッカー	×	1 (3)	- PK	1 (4)	○
バスケットボール (男子)	×	71	-	75	○
バスケットボール (女子)	×	14	-	43	○

【弓削会場】

種目		広島	-	弓削	
硬式野球	○	6	-	0	×
バドミントン (男子)	○	2	-	1	×
バドミントン (女子)	×	0	-	3	○
剣道 (男子)	×	2 (4)	-	3 (6)	○
剣道 (女子)	×	0 (0)	-	3 (6)	○
柔道	○	4	-	1	×
漕艇	○	2	-	0	×



## ○本校練習船「広島丸」 歓迎訪船(門司港)

6月17日(火)に本校の練習船広島丸が航海実習のため門司港に寄港し、北九州市港湾空港局及び一般社団法人北九州港湾振興協会の皆様と北九州港マスコットキャラクター「スナQ」に歓迎していただきました。当日は歓迎挨拶とともに記念品の交換も行われました。美しい海峡の風景やレトロな街並みの門司港の景色とともに本校の実習にあたり素敵な思い出となりました。



## ○中国地区高専大会剣道部 優勝

7月5日(土)～6日(日)に尾道市長原スポーツセンターで開催されました第61回中国地区高等専門学校体育大会剣道競技において、本校剣道部が男子団体の部で優勝しました。た、女子団体の部で2位、男子個人の部で2位、4位の成績をおさめ、男子団体、男子個人の2名においては、9月に福岡県大牟田市で開催される全国高等専門学校体育大会への出場を決めました。



## ○第 60 回全国商船高等専門学校漕艇大会 優勝

7月13日(日)、本校練習船棧橋にて「第60回全国商船高等専門学校漕艇大会」(主管校：広島商船高等専門学校)を開催しました。

本大会には、全国5校の商船高等専門学校からAチーム・Bチームが出場し、熱戦が繰り広げられました。その中で本校漕艇部は、Aチーム・Bチームともに優勝を果たし、見事2年連続の2冠を達成しました。

また、本校漕艇部から1年生クルーによるCチームもオープン参加としてBチームのレースに出場させていただきました。CチームはBチーム予選タイムにおいて3位相当の記録を出すなど、今後の活躍が期待される貴重な経験となりました。



(商船学科 金川 静子)

## 校友会

### 【総会報告】

5月10日(土)、神戸三宮東急REIホテルにて出席者38名で総会が開催されました。



### ★ 校友会会員の方へ

今年度より、過去3年案内に返信のない方には、郵送を廃止しています。

### 【合祀式のお知らせ】

10月11日(土)11時より本校慰霊碑広場にて、今年度亡くなられた24名の合同慰霊祭を開催します。多数の参加をお願いいたします。

広島商船高等専門学校 校友会

月金 9:00~15:00

TEL 0846-65-3899

Mail : [koyukai@hiroshima-cmt.ac.jp](mailto:koyukai@hiroshima-cmt.ac.jp)

# 弓削商船高等専門学校

## ◆令和7年度知的財産セミナーを開催しました

令和7年7月3日、本校アセンブリホールにおいて、各学科3年生を対象とした日本弁理士会高専学生向け知的財産セミナーを開催しました。

本セミナーは、国立高等専門学校機構と日本弁理士会との連携・協力に関する協定に基づき毎年実施しているもので、日本弁理士会から壬生弁理士事務所の壬生優子弁理士に講師として来校いただき、学生、教職員を含め約120名が受講しました。

セミナーでは、「特許エンターテイメントセミナー概要編」と題し、どのような発明が特許になるのかなど、具体的事例を交えながら知的財産について分かりやすく講義していただきました。

また、特許を取ってベンチャー企業を立ち上げようと相談に訪れた主人公とその相談を受けた弁理士の「物語」を本校の学生と壬生講師が演じるなど、演技を交えながら工夫を凝らした講義で楽しく学ぶことができました。



## ◆本田技研工業株式会社による「次世代エンジニア育成支援講座」開催

令和7年7月22日、本田技研工業株式会社による「次世代エンジニア育成支援講座」が開催されました。本講座は、本校の商船学科3年生（以下、S3）、電子機械工学科4年生（以下、M4）、情報工学科4年生（以下、I4）を対象

に開催され、学生107名と教員6名が受講しました。この講座は、本田技研工業株式会社の社会貢献活動プログラムとして、令和3年度から全国の高専を対象に実施されているものであり、本校では令和6年度に続き、今回が2回目の開催となりました。

当日は、総務部社会貢献推進室の青木様、倉橋様、芦原様の3名に来校いただきました。講義は、「製品開発の仕事とマインド」（青木様）、「生産技術 エンジニアの仕事と伝えたい事」（倉橋様）、「ホンダで働く高専卒業生から現役生へのメッセージ紹介」の3テーマで行われ、製品開発や生産技術開発の現場で働くエンジニアの雰囲気を感じられる構成でした。

S3は後期にコース分けが行われること、M4及びI4は夏季休暇中にインターンシップへ参加する学生が多いこともあり、真剣な表情で聞き入っていました。



## ◆練習船「弓削丸」による体験航海「一日船長」を実施

令和7年7月26日、27日の2日間、練習船「弓削丸」による体験航海「一日船長」を愛媛県松山市で実施しました。昨年度よりも多い964名の応募の中から抽選で選ばれた一般の参加者約200名と海洋少年団の約100名が体験航海に参加しました。

参加者は、スタンプラリーを行いながら、ブリッジで舵を取って操船したり、デッキから望遠鏡で遠くの島や船を眺めたり、制服を着て記念撮影をするなど、それぞれ思い思いに約1時

間の船旅を楽しみました。

非常に暑い中での実施でしたが、参加者・教職員・学生に怪我や体調不良等なく、無事に終えることができました。

参加者からは「本物の船を操縦できて楽しかった」、「船に住みたいくらいもっと見学したいと思った」、「女子学生さんが多くて驚いた。夢に向かって頑張りたい」、「学生さんに丁寧に対応してもらえ、子どもだけでなく親も新たな発見があり、楽しい時間を過ごせました」等の感想が寄せられ好評でした。また、「弓削丸」による体験航海を通じて海事思想の普及を図ることで地域に対しても大いに貢献できました。



#### ◆令和7年度商船学科卒業式・専攻科（海上輸送システム工学専攻）修了式を挙

行 令和7年9月19日、令和7年度弓削商船高等専門学校商船学科卒業式・専攻科（海上輸送システム工学専攻）修了式を挙

行し、卒業生29名及び修了生5名に卒業証書・修了証書が授与されました。

今年度も、多くの来賓、保護者の方々のご臨席を賜り、盛大に卒業式を挙

行し、卒業生29名及び修了生5名に卒業証書・修了証書が授与されました。また、来賓の上村俊之上島町長、広重康成全日本船舶職員協会会長から祝辞をいただき、卒業生・修了生は引き締まった表情で聞き入っていました。

続いて、在校生総代の電子機械工学科3年橋本亘輝さんが送辞を述べた後、卒業生総代の村上柚月さんから「私達は明日から社会という未知の大海原へと出航します。時には嵐に出会い、自分の引いたコースラインから外れることもあるかもしれません。しかし、そんな時こそ、ここにいる仲間と過ごしてきた5年半を思い出し、あと一歩踏ん張ってコースライン上に軌道修正し、目的地まで航海を続けていきたいと強く思います」と力強い答辞がありました。

最後に、卒業生一同が登壇礼（とうしょうれい）を実施し、「ごきげんよう！」の掛け声とともに、全員の制帽が美しく宙を舞いました。

卒業生・修了生たちは穏やかな弓削の海に見守られながら、新しい人生航路へと出航しました。



#### ◆大阪万博 EXPO 共鳴フェスー万博から描く未来社会の技術、デザイナーに出展

令和7年6月18日、19日に大阪万博において「EXPO 共鳴フェスー万博から描く未来社会の技術、デザイナー」が開催され、本校もブース出展を行いました。

ブースでは情報工学科3年 平松夏々翔さんの発明品のデモンストレーションやVR ゴーグ

ルを使った操船体験や3Dプリンタの実演などを実施しました。全国津々浦々からお客様が来場されており、「興味深い取り組みで今後が非常に楽しみ」「面白い物がいっぱい思い出がたくさんできた」などお声をいただき、学生も非常に刺激を受けた様子でした。

期間中、EXPO 共鳴フェス全体では14,752名の方が参加され、本校のブースにも多くの人に足を運んでいただき、盛況のうちに終わることができました。



#### ◆四国新人大会出場権獲得！愛媛県高校新人陸上競技大会において2名入賞

令和7年9月13日から15日にかけて、愛媛県総合運動公園陸上競技場において開催された「令和7年度愛媛県高等学校新人陸上競技大会」に陸上部の学生7名が出場しました。

その中で、商船学科2年 武田空大さんは、男子走高跳において1m87を跳び第2位、電子機械工学科2年 杠航太朗さんは、男子やり投において52m02を投げ第3位となり、それぞれ入賞を果たしました。

#### ◆モンゴル科学技術大学と教育・学術交流に関する協定を締結

令和7年9月15日、モンゴルのウランバートルで、国立モンゴル科学技術大学（以下、「MUST」という）と研究・教育交流協定を締結しました。MUSTは4つの研究機関、12の関連学校、2つの分校、1つの高専、3つの専門学校、2つの高校を抱える巨大な組織であり、モンゴルでは最も権威ある高等教育機関の一つとされています。

本校とMUSTは、平成26年にMUST動力工学学校と平成27年にMUST交通機械工学学校と協定を結び、派遣・受入プログラムを通じて交流を深めてきました。今回、MUSTの上部組織との協定を結んだことで、MUSTに所属する全ての組織と交流することができるようになりました。

締結式には、内田校長と国際交流推進室長のガンバット教員が出席しました。MUSTは、ガンバット教員の母校でもあります。終始和やかな雰囲気、これまでの交流の成果が伺える締結式でした。

今回の協定締結を契機に、学生の交流プログラムだけでなく、教職員の交流を実施するなど、両校の更なる発展を目指して国際交流を実施していきます。



#### ◆DCON 特別講義を実施

令和7年9月25日、電子機械工学科・情報工学科の3年生及び希望者を対象とした「第7回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2026 (DCON2026)」に関する特別講義を開催しました。

DCONは、「ものづくりの技術」と「ディープラーニング (AI)」を活用した作品を制作し、その作品によって生み出される「事業性」を企業評価額で競うコンテストです。このコンテストでは、現役の投資家である審査員に、その事業性を評価されるため、起業を目指す高専生にとって大きなチャンスとなる場になっています。

なお、本特別講義では、DCON 実行委員会 事務局長 岡田隆太郎 氏、(株) フォトシンス 代表取締役社長 河瀬航大 氏、NEC ソリューションイノベータ (株) HR 統括部 タレントアキュジショングループ 鶴田和矢 氏にそれぞれ講演いただき、DCON 概要やAI事情、起業経験、大手企業の取り組みなどについて学びました。

学生たちは、技術とビジネスの融合について理解を深める貴重な機会となり、今後の進路や挑戦への意欲を高めるきっかけとなりました。



#### ◆四国新人陸上競技選手権、男子やり投2位、男子走高跳4位入賞！

令和7年10月11日、12日、香川県立丸亀競技場で開催された「第27回四国高等学校新人陸上競技選手権大会」において、学生2名が出場しました。

電子機械工学科2年 杠航太郎さんは男子やり投で54m12を投げて2位入賞、商船学科2年 武田空大さんは、男子走高跳で1m90を跳んで4位入賞の素晴らしい成績を収めました。

来年の総体では、陸上部として初のインターハイ出場が期待されます。



#### ◆令和7年度第40回瀬戸内商船高等専門学校漕艇大会を開催

令和7年10月18日、第40回瀬戸内商船高等専門学校漕艇大会を本校棧橋で開催しました。本大会では、瀬戸内海にある三校 (大島・広島・弓削) のカッター部Aチーム・Bチームが参加し、弓削沖での海上レースの順位を競いました。

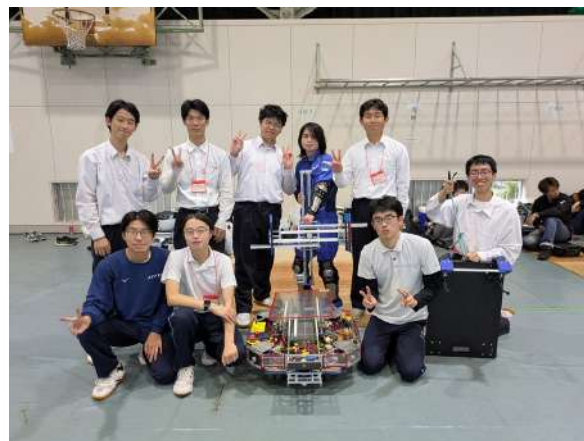
学生たちは息を合わせ、力の限りオールを漕ぎ、日頃の練習の成果を発揮しました。また、

天気も晴天に恵まれ、学生・教職員ともに思い出深い1日となりました。

熱戦の結果、Aチーム・Bチームともに、広島商船高等専門学校カッター部が優勝となりました。



本校からはAチーム（ロボット研究部）及びBチーム（電子機械工学科5年生）の2チームが出場しました。両チームとも予選リーグ敗退でしたが、表彰式で、Aチームが重心の低い安定した動きによるパイロン運びを評価され、特別賞（東京エレクトロン株式会社賞）を受賞し、さらにBチームが箱型の形状とかわいい外装を評価され、デザイン賞を受賞しました。



（練習船弓削丸 森瑛太郎 記）

#### ◆全国高専ロボコン2025四国地区大会 Aチーム「特別賞」、Bチーム「デザイン賞」を受賞

令和7年10月19日、阿南工業高等専門学校において、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2025 四国地区大会」（以下、「ロボコン四国地区大会」）が開催されました。今年度の課題は「Great High Gate」で、大きさや形の異なる5種類のボックスを積み上げてゲートを作り、ロボットと人が乗った台車が連結し、完成させたゲートを通過することでした。

## 弓削商船高専同窓会

### ■上島町ふるさと納税を活用して弓削商船高専を応援しよう！

上島町ふるさと納税でいただいた寄附の目的に、「弓削商船高等専門学校の支援」が追加されました。弓削商船高等専門学校の人財育成や地域課題の解決に繋がる優れた取組を応援するために、皆様のご支援をよろしく申し上げます。ふるさと納税サイトにおいて、上島町の返礼品を選択いただき（上島町以外にお住まいの方のみ）、寄附の目的に「弓削商船高等専門学校の支援」を選択するだけです。学校では、目的に沿った事業に充当し、有効活用させていただきます。

上島町ふるさと納税のご案内へのリンク



### ■故込山洋一氏の訃報に接して

本校の卒業生込山洋一氏（N80）が、本年9月8日にロサンゼルスにてご逝去されたとの報に接し、大変驚いております。

氏は、弓削商船120周年記念式典の際、ロスアンゼルスから来日を頂き、本校にて記念講演をお願いし、学生諸君は大先輩からの今後の指針となる大変貴重なお話を拝聴し、大いに感銘を受けていました。練習船でロスアンゼルスへ行った際、当地が大変気に入り卒業後単身渡米し、皿洗いから始め、アメリカでの日本人の指標となる会社ライトハウスを設立し、在米日本人の方々に大変役立ち喜んでいただける情報誌を発刊し、社会に貢献して参りました。

同窓会として、大変誇りとしていた同氏が59

歳の若さでお亡くなりになられ ことは誠に残念で、言葉では言い表せないほどの深い悲しみで一杯です。

故込山洋一様のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げますとともに心よりご冥福をお祈り申し上げます、合掌。

尚、同窓会として、弔電他は受け付けて頂けないとのことですので、生花をお願いしました。

同窓会長 柏木 実

### ■第48回京浜地区しらすな会ゴルフコンペが開催されました。

厳しかった酷暑も少し前の話となりました。9月27日(土) ジャパンPGA ゴルフクラブにて、卒業生15名が集い熱い戦いが繰り広げられました。今回は、卒業生の濱田様のご子息と友人の参加もあり、更に熱戦と幅広い交流が出来ました。天候は、雲は厚いながら晴れとなり初秋の中で、脱落者もなく楽しいコンペとなり、良い結果を出せました。コンペの結果は、新ペリア方式とし、下記の方となりました。

次回のしらすな会ゴルフコンペの開催は、令和8年3月28日(土)を予定しております。同窓会の方々の声掛けなどして頂き、更なる交流と親睦の場となることを願っております。

これからも皆様のご健康とご活躍をご祈念致しております。

	氏名	グロス	ネット
優勝	柴田 悠介	76	71.2
準優勝	福島 嘉満 (E42)	87	71.4
第3位	森 健介 (N84)	98	72.8



■第3回しまなみ会ゴルフコンペを開催しました。

今治支部・尾道支部合同開催「第3回しまなみ会ゴルフコンペ」を、2025年11月24日（月・振替休日）に、松山シーサイドカントリークラブを舞台に開催しました。

遠路またご多忙の中、ご参加くださった25名の皆様、誠にありがとうございました。当日は、11月末とは思えないほどの暖かな好天に恵まれ、壮大な瀬戸内海を望む絶好のコンディションの中で、競技方法であるWペリア方式（セルフプレー）により熱気あふれるラウンドとなりました。

今回も皆様のご協力により無事盛会にて閉会し、白熱した戦いが繰り広げられました。栄えある優勝に輝いたのは、N60 小池 信夫 様です！小池様はOUT 39、IN 39という安定した素晴らしいプレーを見せ、ハンディキャップ（HD）6.0を適用し、見事ネット72.0で優勝されました。プレー終了後には、同クラブ2Fにて表彰式を実施し、盛会裏に終了いたしました。小池様、優勝おめでとうございます！



■同窓会事務局

電話（学校代表） 0897-77-4606

F A X 0897-77-4692

メール [info@yuge-kosen.com](mailto:info@yuge-kosen.com)

同窓会事務担当 田房 友典（12期）

# 大島商船高等専門学校

## 1. 式典・催事

### ○令和7年度卒業証書・専攻科修了証書授与式 挙行

令和7年9月19日（金）、地元周防大島町の大島文化センターにおいて、令和7年度卒業証書・専攻科修了証書授与式を挙行了しました。今年度の卒業生・修了生は、本科商船学科33名（航海コース16名、機関コース17名）、専攻科海洋交通システム学専攻2名でした。

藤本隆士校長は、式辞で「皆さんの将来は大きく広がっています。そして皆さんが描く将来の航海計画も無限の可能性を秘めています。人生においては荒天の中を進み続けなければならないときもあることでしょう。そのようなときこそ、慌てず、焦らず、侮らずという安全航海の基本を心がけ、それぞれのナビゲーションプランを見直してください。皆さんの今後の航海が洋々たるものであることを祈念しています。」と祝福・激励しました。

式終了後、卒業生は、帆船の出航時に行われる儀式である登檣礼（とうしょうらい）や登舷礼（とうげんらい）にならって「ごきげんよう」と3回叫び、帽子を高く投げ上げて、将来への活躍を誓いました。



登檣礼（とうしょうらい）の様子

### ○令和7年度専攻科入学式挙行

令和7年10月1日（水）、令和7年度専攻

科海洋交通システム学専攻の入学式を挙行了しました。式辞で藤本隆士校長から、「これからの海運界では、皆さんが今まで学んできた商船学の知識に加え、国際的な視野に基づく価値判断ができる力と、海運業界のDX化に対応できる高度な工学的センスが必要になります。専攻科において、恵まれた教育環境を有効に利用して、国際感覚を醸成し、デジタル化に対応できる工学的知識を身に付けてください。」と激励の言葉がありました。続いて、専攻科新入生が、「将来有為な海事技術者となるため、学則を守り心身を鍛え学業に励むことを誓います。」と宣誓しました。今後、新入生は2年間で、海洋を中心とした国際・国内物流管理分野及び海事関連分野で活躍できる海運管理者を目指します。



入学式の様子

## 2. 教育活動

### ○台湾・国立高雄科技大学（NKUST）との国際交流2025

令和7年7月15日（火）～20日（日）の6日間、台湾の国立高雄科技大学（NKUST）から学生15名と教員2名が来日し、本校の学生と交流しました。

交流プログラムは、レーザー加工機を使用した実験実習や大島丸による体験航海、周防大島町役場での説明、茶道体験などを実施しました。

NKUST の学生たちは日本文化に強い関心を示し、充実した体験となりました。

また、広島市平和記念資料館や岩国市の名所を訪れ、日本文化や平和への理解を深めました。学生たちからは、「多くの友人と出会い、日本の文化をさらに好きになった」との感想が寄せられました。

本校学生にとっても、英語を使った積極的な交流は有意義な国際経験となりました。来年3月には、本校から NKUST を訪問する交流プログラムを実施する予定です。



茶道体験の様子

### ○ 第 2 回 高 専 研 究 国 際 シ ン ポ ジ ウ ム (KRIS2025) にて本校の学生が発表

令和 7 年 8 月 24 日 (日) ~ 25 日 (月), 「第 2 回高専研究国際シンポジウム(KRIS2025)」において本校から専攻科生 3 名, 本科生 2 名の計 5 名が研究発表を行いました。当日は参加者からの活発な質疑が寄せられ, 研究内容について有意義な議論が交わされました。

本シンポジウムは, 独立行政法人国立高等専門学校機構が主催し, 工学分野における国際的な研究発表の機会を提供することを目的として開催されています。国内外の高専, 大学等から広く発表者を募集し, 学術交流の推進を図るものです。事前申込やアブストラクト提出, 講演会での発表および質疑応答など, すべて英語で実施され, 学生にとって国際的な研究発表を経験する貴重な機会となりました。



発表の様子

### 3. 地域連携活動, 公開講座など

#### ○ 令和 7 年度地域連携交流会総会開催

令和 7 年 9 月 5 日 (金), 令和 7 年度大島商船高等専門学校地域連携交流会総会が開催されました。総会では冒頭に川口勉会長と本校・藤本隆士校長の挨拶に続き, 川口会長を議長として令和 6 年度の事業・決算・監査報告, 令和 7 年度の事業計画案および予算案の議事について協議し, いずれも滞りなく承認されました。総会后には, 本校教員による研究事例等ポスター発表を実施し, 多くの会員企業の方に参加いただき, 活発な意見交換が行われました。

大島商船高等専門学校地域連携交流会は, 本校と海事産業界・地域産業界との各種交流を通じて, 産業発展と本校の教育研究の振興を図ることを目的として, 平成 21 年 10 月に設立されました。(https://oshima-renkei.jp/)

交流会では日頃から本校教員と企業との技術交流や, 学生への就職説明会など多様な連携活動が積極的に行われており, 産学連携の強化にも大きく寄与しています。



総会の様子

#### 4. 学校 PR 活動, クラブ活動の表彰など

##### ○第 2 回オープンキャンパス開催

令和 7 年 8 月 9 日 (土), 第 2 回オープンキャンパスを開催し, 山口県内をはじめ, 岩手県・沖縄県, さらに海外からも多くの方にご参加いただき, 中学生 187 名, 保護者やご家族 190 名が来場されました。今回は, 希望学科ごとに中学生約 5 名の班を編成し, 在校生が実験室や学生寮を案内する形式で実施しました。案内学生との距離が近く, 参加者の皆さまが本校の学びや学生生活をより深く知ることのできる良い機会となりました。

##### ○高専ロボコン 2025 中国地区大会 A チーム特別賞(マブチモーター賞)受賞

令和 7 年 10 月 5 日 (日), 山口県防府市のソルトアリーナ防府において, アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト 2025 中国地区大会が開催されました。

A チーム【白虎の幻想】, B チーム【カモ娘ビルダーダービー】は, とともに予選ラウンドを 1 勝 1 敗で終え, 惜しくも決勝トーナメント進出とはなりませんでした。

なお, A チーム【白虎の幻想】は「特別賞(マブチモーター賞)」を受賞しました。



ダンボールを運ぶ, A チーム【白虎の幻想】

##### ○第 36 回全国高専プロコン松江大会 コンピュータ部が特別賞と企業賞受賞

令和 7 年 10 月 11 日 (土) ~ 12 日 (日), 松江市で開催された「第 36 回全国高等専門学校プログラミングコンテスト」(高専プロコン)の

課題部門, 自由部門, 競技部門に本校の学生が参加しました。課題部門出場チームが特別賞とインフォコムテクノロジー株式会社企業賞をダブル受賞しました。

今回の課題部門では「ICT を活用した環境問題の解決」をテーマに作品が募集され, 本校チームは, 身近に生えている「苔(コケ)」を活用した環境教育システム『コケミーム』を提案しました。コケに着目した独創性と取り組みへの熱意が評価され, 2 つの賞を受賞しました。

今年度の高専プロコンは国際大会の予選も兼ねており, 特別賞を受賞した本校チームは, 3 月にベトナムで開催される第 17 回 NAPROCK 国際プログラミングコンテストへの招待が決まりました。

競技部門チームは 10 年以上届かなかった決勝に進出し, 惜しくも受賞は逃したものの大健闘しました。自由部門チームは, オリジナルのほうき型デバイスと MR ゴーグルを組み合わせた, 楽しく掃除ができるシステム『HAKUNE』を展示し, 多くの来場者に興味を持っていただきました。また, 令和 7 年 10 月 24 日 (金), 企業賞を受賞したチームへの副賞贈呈式が, 本校にて行われました。学生からは, 「3 月にベトナムで開催される第 17 回 NAPROCK 国際プログラミングコンテストに向けて, 今回いただいた副賞をぜひ活用したい」と喜びの声が寄せられました。



全チームの集合写真

(商船学科 松村 哲太 記)

# 大島商船同窓会

## ＜令和7年度 大島商船同窓会 慰霊祭・理事会・総会の開催＞

9月18日、本校にて大島商船同窓会による慰霊祭および理事会・総会を開催致しました。慰霊祭には全国の同窓会各支部の役員25名と校内理事、総務主事、そして本校の学生4名にご参列いただきました。同窓会に所属していた49名の合祀者に黙とうを捧げ、献花いたしました。また、慰霊祭の後に開催された理事会・総会が行われました。同窓会の決算報告や全国各支部の活動報告などが行われました。各支部の活動報告は、本ホームページより閲覧できますのでぜひご覧ください。



同窓会長による追悼の辞



学生による合祀者への献花



同窓会総会の様子

## ＜令和7年度関門小松会総会懇親会の開催＞

2025年10月31日（金）小倉リーセントホテルにて総勢21名が参加し、総会・懇親会が開催されました。昨年、関門小松会会長に就任した大坪会長からの開会挨拶の後、前会長の広重様のご挨拶、令和6年度の活動報告、会計報告、同窓会本部総会報告が行われ、68期 鯉井様に乾杯のご発声を頂き、歓談・会食がスタートしました。歓談後には、現校歌・旧校歌の斉唱が行われ、閉会となりました。



関門小松会集合写真

## ＜令和7年度阪神小松会総会の開催＞

10月25日（土）12時より、神戸三宮「燦」で小松会総会を開催し9名が集まりました。会計報告、総会、慰霊祭、卒業式の報告、意見交換会などが行われました。



阪神小松会集合写真

**<令和7年度 京浜小松会総会懇親会の開催 >**

令和7年度 京浜小松会総会・懇親会を10/25(土) ホテルマリナーズコート東京にて開催致しました。コロナの影響もあり6年ぶりの開催となりましたが、44名の御参加をいただき、盛大に盛り上がりました。昨年度の卒業生も参加して、幅広い層に集まっていただきました。



京浜小松会集合写真

**<クラス会、期別会への支援について>**

来年の令和8年で創基130年にあたり、名簿発刊、年会費納入をお願いしております。どうぞ、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。特に、卒業後間もない会員の会活動への参加と会費納入は、会存続に関して喫緊の課題だと認識いたしておるところです。そこで、卒業して3年、5年、10年と節目の年にクラス会、期別会を企画なさっている会員方が、懐かしい担任、クラブ顧問、他学校職員（旧職員含む）をその催しに招聘される場合、招聘者の旅費、参加費等の一部を、同窓会より支援させていただきたいと存じます。なお、支援金額に上限はございますが、是非ご利用いただき、盛会となられ、同窓会ホームページにお知らせいただきたいと考えております。その際、会幹事の皆様には、会員参加者のうち、会費納入者名簿のご提出をお願いいたします。会費納入者数に応じて支援額を算定いたしますので、ご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、この企画、金額やご意見等ございましたら、本部事務局か、[dousou@oshima-k.ac.jp](mailto:dousou@oshima-k.ac.jp) までどうぞご連絡下さい。

以上、お願いとお知らせでした。

# 海技教育機構

## ● 乗船実習

### 【日本丸】

10月1日に高等専門学校4年生(第56期生)航海科91名が乗船し、5ヶ月にわたる実習を行っています。名古屋港の一般公開では、訪れた方に、椰子摺りやロープワークの体験会を実施しました。1月の下旬には、シンガポールへの遠洋航海も予定しています。外地への遠洋航海は実習生にとって大きな自信になることでしょう。



【写真1】日本丸（船尾側）

### 【銀河丸】

7月1日に高等専門学校6年生(第54期生)機関科71名が乗船し遠洋航海を含む3ヶ月の長期実習を行いました。8月にはシンガポールに寄港しました。実習では、ブラックアウト実習、シンガポール海峡航路見学などを実施し、船舶運航技術に習熟しました。6年生にとっては、高専での学生生活の最後の乗船実習になりました。外地への遠洋航海は、特に思い出深い航海となりました。



【写真2】日本丸（船首側）

10月7日に高等専門学校4年生(第56期生)機関科85名が乗船し、日本丸の航海科と同様に5ヶ月間の長期実習を行っています。多くの実習・調査を経験して、機器を安全に運転する上で重要な機器の構造を深く理解できた事でしょう。

### 【青雲丸】

7月1日に高等専門学校6年生(第54期生)航海科90名が乗船し、3ヶ月の長期実習を行いました。実習中は、小樽、青森及び函館と東北、北海道の三つの港を訪れ、涼しい環境で、有意義な実習ができました。また、IMO特別講義も行われ充実した実習となりました。



【写真3】銀河丸（後部甲板）



【写真4】銀河丸（機関室）



【写真5】青雲丸（第1教室）



【写真6】青雲丸（操練）

<令和8年1月から3月までの乗船実習予定>

- 日本丸
  - 高等専門学校(航海)4年(2025/10/1 乗船)
    - 1/14 神戸発、1/27～1/31 シンガポール、
    - 2/16 東京着、2/17 下船
  - 高等専門学校(航海・機関)3年
    - 3/1 乗船、3/4 東京発、3/9～3/13 清水、
    - 3/19～3/23 大阪、3/28 神戸着、3/31 下船
- 銀河丸
  - 高等専門学校(機関)4年(2025/10/7 乗船)
    - 1/7 神戸発、1/16～1/21 名古屋、
    - 1/27～1/31 横浜、2/7 神戸着、2/10 下船
  - 高等専門学校(航海・機関)3年
    - 3/1 乗船、3/3 神戸発、3/9～3/13 大阪、
    - 3/19～3/23 横浜、3/28 横浜着、3/31 下船
  - 大学(神戸)(航海・機関)3年
    - 1/5 乗船、3/10 下船
- 海王丸
  - 大学(航海)4年・海技大学校(航海専攻)
    - 1/5 乗船、1/8 神戸発、1/20～1/24 鹿児島、
    - 2/5～2/10 那覇、2/19～2/24 横浜、
    - 2/28～3/4 神戸、3/9 東京着、3/10 下船
- 大成丸
  - 海上技術学校・海上技術短期大学校
    - 航海専科(小樽)
    - 1/5 乗船、1/7 東京発、1/13～1/17 横浜
    - 1/24～1/28 清水、2/6～2/10 神戸、
    - 2/16～2/20 高松、
    - 2/26～3/2 細島、3/7 神戸着、3/10 下船
- 青雲丸
  - 大学(機関)4年・海技大学校(機関専攻)
  - 海上技術短期大学校 専修科(波方)
    - 1/5 乗船、1/7 大阪発、1/16～1/20 門司
    - 1/26～1/30 鹿児島、2/6～2/10 神戸、
    - 2/20～2/24 広島、3/7 神戸着、3/10 下船

\*気象状況等によりスケジュールが変更する  
場合がございます。

● 海事広報

WEB を活用して実施できる広報活動について、現在は、フェイスブック、X(旧ツイッター)などで積極的に情報発信を行っております。是非ご覧ください。

海技教育機構公式 Facebook

<https://www.facebook.com/jmets.ac.jp>



海技教育機構公式 X(旧 Twitter)

<https://twitter.com/jmetsacjp>



●海技教育機構オリジナルカレンダー2026

海技教育機構オリジナルカレンダー2026 の販売を行っています。昨年に続き、今回も掲載写真を一般の方々から募集し、全国から大変多くの応募をいただきました。日頃よりJMETSを応援してくださっている方々から届いた、様々な練習船の写真や実習の様子で構成されたカレンダーとなっております。

価 格:1部 900 円(税込、送料別)

サ イ ズ:[カラー B4(見開き B3)版]

中綴じタイプ

製作・販売:株式会社 交文社

ご注文・お問合せ先:

Email : [info@kobunsha-print.com](mailto:info@kobunsha-print.com)

HP : <https://www.kobunsha-print.com/news/716>

TEL : 03-3267-1225 FAX : 03-3267-3120

●JMETS カレンダー&練習船カレーセット(160 セット限定販売)】

カレンダー + カレー + 送料 = 2,200 円(税込)



今後とも JMETS へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

## 第53回戦没・殉職船員追悼式ご案内

第53回戦没・殉職船員追悼式を下記の通り挙行いたします。多くの皆様の参列をお願い申し上げます。

式典は、11時開式・国歌斉唱・黙祷・式辞・参列者献花・能楽「海霊」奉納の順に行し12時に閉式。散会の予定です。

お問い合わせは日本殉職船員顕彰会へご連絡ください。

### 記

日時 令和8年(2026)年5月14日(木)午前11時開式

\*晴雨に関わらず受付は午前9時に開始します。

場所 神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」(横須賀市)

交通 ① 京急浦賀駅から観音崎行き京浜急行バス(所要約15分)

② JR横須賀駅から観音崎行き京浜急行バス(所要約30分)

\*①②ともに『観音崎』バス停下車

③ 『観音崎』バス停から式典会場まで無料マイクロバス送迎

\*乗用車による式場乗入れはできません。

午前9時から11時10分まで観音崎バス停前の第1駐車場から式場の『戦没船員の碑』まで無料マイクロバスを運行します。

\*JR東京駅から観音崎バス停までの所要時間は約1時間30分です。

以上

※式典には、全国の遺族、関係者の参列をいただいています。ご案内状の発送は4月上旬を予定しておりますが、ご案内を差し上げない方々も自由に参列できます。

※式典会場は屋外となります。近年の温暖化の影響で晴天の場合は気温が高くなること予想されます。暑さ対策として、帽子・日傘・水等をご用意ください。

※式典は雨天でも行いますので、雨具の用意をお願いします。

※開式前に海上自衛隊横須賀音楽隊の前奏があります。

(雨天の場合、前奏は変更になることがあります。)

※式典終了後(概ね午後12時から午後1時まで)式典会場の戦没船員の碑から「観音崎」バス停および京急「馬堀海岸駅」まで無料マイクロバスを運行します。

※懇親会は会場の都合により行いません。

〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目5番地 海事センタービル

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会

電話 03-3234-0662

FAX 03-3234-0682

E-mail : kenshoukai@isis.ocn.ne.jp



雷撃により棒立ちとなって沈没する「ぶら志る丸」

第52回 知られざる民間船舶の悲劇  
**戦時徴用船遭難の記録画展**  
 〔大久保一郎画伯遺作〕

令和8年**8月21日(金)~8月31日(月)**

午前10時~午後6時

【初日：午後1時開場 最終日：午後4時閉場】

**入場無料**

会場 **東京都江戸川区立タワーホール船堀**  
 1階 展示ホール1

東京都江戸川区船堀4丁目1-1

主催 **公益財団法人日本殉職船員顕彰会**

東京都千代田区麹町四丁目5番地 TEL 03-3234-0662

**交通**

【電車】 都営新宿線「船堀駅」下車徒歩約1分

【車】 首都高速中央環状線(C2)「船堀橋I.C.」より約5分  
 タワーホール地下駐車場：161台(有料)  
 台数に限りがありますので公共交通機関をご利用ください。



## 本部・支部だより

- 2025/8/5 国交省海事局 新垣局長への挨拶（広重・中山・徳嶋・西山）
- 2025/8/6 文科省高等教育局 松本課長へ挨拶（広重・中山・徳嶋・西山）
- 2025/8/15 終戦記念日 献花式 観音崎公園「戦没船員の碑」（徳嶋）
- 2025/9/13 鳥羽商船高専 150周年記念式典（広重）  
鳥羽商船高専 150周年・同窓会 100周年記念祝賀会（広重）
- 2025/9/18 大島商船同窓会 慰霊祭・理事会・総会（広重）
- 2025/9/19 鳥羽商船高専 商船学科卒業式（菅沼）  
弓削商船高専 商船学科卒業式（柏木）  
大島商船高専 商船学科卒業式（広重）
- 2025/9/21 広島商船高専 商船学科卒業式（中山）
- 2025/9/24 富山高専 商船学科卒業式（玉川）
- 2025/9/25 次世代の海洋人材の育成事業 第1回運営委員会(WEB会議)(徳嶋)
- 2025/10/18 全船協 2025年度第2回理事会
- 2025/10/25 大島商船高専 京浜支部総会・懇親会
- 2025/10/29 海技教育財団 第44回理事会（広重）
- 2025/11/13 衛藤征四郎 講演会（徳嶋）
- 2025/11/21 全船協 役員改選選考委員会（徳嶋、西山）
- 2025/11/26 海洋教育推進プロジェクト（中山、徳嶋）
- 2025/11/27 赤池まさあき 第1回勉強会（中山、徳嶋）
- 2025/12/10 5校商船学科長懇談会・懇親会（広重,中山,徳嶋,清崎,水野,西山）



2025年12月15日

## 役員立候補者募集告示

一般社団法人全日本船舶職員協会  
役員候補者選考委員会委員長

一般社団法人全日本船舶職員協会は、役員（理事・監事）の任期が2年となっており、現役員の任期は2026年度通常総会をもって終了いたします。

そのため、以下の要領で候補者を公募して2026年6月に予定される通常総会において新役員を選任することを下記の通り告示いたします。

記

### 募集要項

#### 1. 立候補資格（役員候補者選考規則、第8条）

正会員で、会費を3年以上未納となっていないこと。

#### 2. 募集する役員の種類（定款、第24条、役員候補者選考規則第4条、第5条）

理事10名以上15名以内（役員候補者選考規則第8条2項の3名を含む）。

監事2名。

役員候補者選考規則第4条により、次の立候補区分から理事及び監事の立候補者を募ります。

- (1) 富山高等専門学校商船学科卒業者
- (2) 鳥羽商船高等専門学校商船学科卒業者
- (3) 弓削商船高等専門学校商船学科卒業者
- (4) 広島商船高等専門学校商船学科卒業者
- (5) 大島商船高等専門学校商船学科卒業者
- (6) 上記を除く本協会の正会員

区分毎の立候補定員に満たない時、または超過した場合は役員候補者選考委員会が理事会で決めた各推薦数（理事2名、監事は輪番制）を基に調整させていただきます。

#### 3. 募集期間

募集開始 2025年12月15日（月）

募集締め切り 2026年1月19日（月）

（立候補届は、締切日までに全船協本部に必着のこと。）

なお、詳細については、全船協ホームページを参照ください。

## 賛助会員名簿

2025年12月現在

賛助会員の方々にご支援とご協力をいただいております。（一社）全日本船舶職員協会

株式会社オーシャンリンク	上野トランステック株式会社
日本栄船株式会社	協同商船株式会社
日本ガスライン株式会社	弓削商船高専同窓会
株式会社マリントランスシステム	広島商船高専校友会
大島商船高専同窓会	株式会社コトラシステム
名古屋メッキ工業株式会社	神戸マリーン工業株式会社
東海海運株式会社	栗林商船株式会社
かもめプロペラ株式会社	八馬汽船株式会社
株式会社商船三井内航	富山高専 北斗会事務局
大四マリン株式会社	戸田汽船株式会社
山友汽船株式会社	菅原汽船株式会社
株式会社B&Sエンタープライズ	NSユナイテッド内航海運株式会社
太洋産業貿易株式会社	株式会社アイエスシー
日本フィールド&マリンエンジニアリング株式会社	名阪船舶株式会社
玉井商船株式会社	正栄汽船株式会社
鳥羽商船高専同窓会	北星海運株式会社
旭運輸株式会社	有限会社ハマテクノサービス
摂予汽船株式会社	兵機海運株式会社
日本油化工業株式会社	東興海運株式会社

## 2025年度 会費納入者芳名帳①

2025年 8月 1日～2025年 12月 17日現在

8月	栗阪 肇	二川 英樹	10月	芹田 眞光	原田 信夫
個人	西山 豊久	秦 眞三	竹内 航平	杉本 真吾	白石 真純
城戸 裕晶	滝口 智	吉本 茂正	上野 勇介	門島 陸	千葉 優太
9月	和田 一輝	柴田 周平	内海 光平	川越 義人	金子 海里
平賀 和徳	松本 大典	吉田 康二	井波 稔	山中 亨子	末永 智之
末田 亮介	森田 任紀	直原 正汰	須田 浩明	浅井 椋	田中 拓海
中川 佳彦	齋藤 彰	富高 航平	野村 浩久	神田 修二	野田 恭平
小谷 卓哉	吉村 重登	村田 一明	佐伯 滉史	濱本 奈	浪切 聡史
谷中 和泉	橋之口 勉	内海 真吾	谷本 優太	萩原 智昭	中野 陽介
下迫 渉夢	寒河江 芳美	岡本 篤	木下 博	川崎汽船	宮田 涼一
吉原 蒼一郎	山田 青五	桂 幹治	堺屋 純	中村 敦也	吉永 友安
金光 学史	森 健介	松浦 駿	山崎 希海	阿部 昭敬	北井 君弥
末岡 民行	藤井 一洋	土肥 一輝	峯 浩	足立 吉久	藤島 卓弥
中川 敏昭	澤田 敬生	西宮 昭二	佐藤 陸	廣瀬 憲博	續石 波輝
山田 昌利	高野 功	田中 翔	近藤 武	岡本 龍太	米重 絢人
中居 豊平	松見 準	高嶋 将臣	西谷 直記	西川 信紀	小林 勇海
松村 茂実	小池 信雄	濱尾 弘宣	西谷 勇二	藤澤 直樹	田中 巖之介
渡辺 隆彦	山本 麻鈴	岡本 直也	木元 孝憲	村松 賢一	山崎 剛志
武田 雄三	石田 修悠	西 泰浩	神戸 金太郎	富田 稔	服部 実儀
西村 誠	中島 敏行	長谷川 徹	須佐美 智嗣	大澤 博次	
日朝 俊哉	内藤 真世	中西 安仁	寺川 明範	川本康一郎	
亀山 真吾	沖本 和也	林 和佳奈	東方田 祐康	小山 陽平	
堀田 規安	渡部 英利	飯村 拓里	安田 哲士	山下 裕規	
武村 泰宏	廣瀬 潤一	榮 雄生	亀井 謙多	藤坂 祐介	
橋本 禎成	野崎 正則	古川 洋	高橋 美和	西岡 圭志	
吉澤 勇	師富 潤	太田 知孝	本田 芳樹	加藤 健真	
徳森 生喜	澤井 建毅	木場 恭平	11月	長沼 竜二	
新田 泰弘	岡松 諒於	上村 尚希	山内 昌也	長尾 徹也	
鬼木 海	渡邊 肇	大木 未来	田中 新人	友光 雄太	
桑田 大輝	薬師寺 祐花	門脇 元	湯浅 秀仁	山本 将吾	
新田 浩貴	町 裕次	松本 佳岳	加塚 伸吾	石田 宗久	
菅沼 延之	安部 眞一	阿久根 浩人	杉本 和重	楠本 竜也	
岩本 竜輔	國武 千歳	田中 英治	時松 勇貴	鬼頭 和江	

## 2025 年度 会費納入者芳名帳②

2025 年 8 月 1 日～2025 年 12 月 17 日現在

12月	日本郵船		終身会員
個人	大木 昭和	菅 篤志	文谷 嘉宏
新良 溪太	長井 一剛	応治 俊幸	森川 勉
相原 隆志	安井 修三	須磨 秀文	鈴木 晴敏
菅原 央貴	一原 勝彦	石井 秀典	畑内 康孝
内野 光博	芥川 俊久	笠松 法昭	谷口 誠
武田 康裕	藤野 晴久	古川 大樹	松本 弘明
高岡 俊輔	杉山 栄作	成田 龍之介	千道 英雄
共栄タンカー	池田 和人	久保 潤一	
佐藤 好司	麻生 恵毅	岡田 悠紀	
外谷 正彦	徳田 健二	神田 和也	
石田 健一郎	鳴海 弘晃	川西 雄太	
浦田 建	杉山 治	鈴木 直	
中野 寛士	中原 雅光	森下 辰郎	
岩城 音芽	半田 洋樹	三宅 俊哉	
西村 周太	出口 孝治	小林 佳寛	
玉井商船	森 光生	下田 賢斗	
清崎 哲也	熊谷 英樹	山森 大幹	
村上 伸一	佐々木 努	内山 拓哉	
ジェイマリン	梶山 勝徳	木村 祐太郎	
杉山 博	堀江 貴義	竹俣 多聞	
梶原 仁	岡本 二郎	繁岡 潤人	
嵐 公司	大下 尚	溝口 雄基	
	佐藤 祥二	村上 凜汰朗	
	中西 智章	原田 亮太郎	
	森 団平	橋本 康平	
	岩本 真一	濱田 彪我	
	富田 佳彦	三輪 恭也	
	川上 哲治	山本 悠陽	
	蔵田 恒志郎	高藤 丈太郎	
	小西 智子	田頭 佳乃	
	富士 竜太		
	荒井 英次		

## 2025 年度 新入学準会員入会者名簿

2025 年 8 月 1 日 ~ 2025 年 11 月 30 日

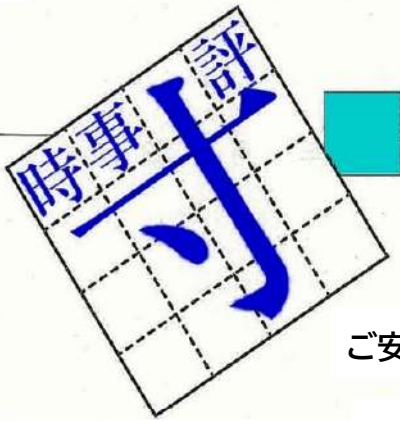
富山高専
8月
徳山 喜紀
10月
宮原 希海
11月
供村 敬司



## 2025 年度 新卒業入会者名簿

2025 年 11 月 30 日現在

富山高専	鳥羽商船	広島商船		弓削商船	大島商船
宇尾 知花	池田 和希	赤井 乙音	三好 雅宗	浅野 紘希	赤坂 洸哉
岡田 泰知	市川 敬之	伊賀 陽之介	宗正 真宙	石口 耕己	生田 一裕
久保 海音	井上 響	石川 智康	山村 丈	岩崎 光希	石崎 由真
久保 風音	小川 龍馬	稲田 駿登	杠 瑞樹	岩崎 祐太	井上 魁斗
上月 貴生	栗原 玄太郎	上野 壮太郎	横田 空来	宇都宮 亜太郎	岩下 尚賢
坂尻 ほのか	小林 舜	大野 紗来	吉岡 雅治	大竹 海斗	占部 拓真
坂本 陸凰	小林 太紀	岡田 大和	吉村 凌瑛	岡田 那智	大庭 雅裕
摺崎 壱星	小林 百合絵	岡本 柚実子		笠岡 治憲	小田 達也
高橋 幹斗	佐々木 慧河	梶原 良太		加藤 猛	加賀 萌瑞
谷内 真魚	高柳 陸	片岡 花奈音		菅 久仁彦	金重 欣弥
殿村 大輝	高山 慶介	加藤 照章		後藤 大夢	神宇 春陽
中谷 紳吾	田淵 風翔	金津 香太郎		阪下 裕成	河野 晃輝
根布長 咲楽	戸野部 勇冴	河田 彩登		住田 涼太	坂上 陸
馬場 泰正	中居 伶	久住 涼大		田中 夢叶	坂本 海翔
原 純風	中村 恒平	小山 尤		土肥 遼太郎	高橋 陽汰
三林 奏太	西川 蘭丸	佐々木 海人		中山 涼哉	田中 晴琉
	服部 仁	下宮 綾乃		難波 大生	寺道 蒼
	疋田 梢真	下向井 美久		西田 勝太郎	橋浦 健太
	藤井 陽士	砂川 峻鳳		野田 航士朗	橋本 海志
	松尾 歩武	竹内 勇馬		藤田 絢音	花川 心翔
	宮根 航翔	橘 勇希		藤田 航平	原田 倫汰郎
	武藤 希奈	富永 一葉		村上 柚月	弘津 葵
	山口 なづな	中根 悠希		山本 晃士	福森 健太
	渡邊 源	中村 光来		横田 翔真	堀 兼慎
	渡邊 剛	南波 夏海		吉泉 陽生	牟田 悠真
		間 結子		吉岡 和月	森重 心理
		原田 恭佑		渡邊 昭巴	諸隈 悠介
		檜高 陽向			八木 太陽
		藤本 航基			山本 快人
		古田 健太郎			吉田 奏人
		益田 怜依			吉村 昇
		神谷 是輝			吉村 大樹
		三宅 那実			若松 謙親



## ご安航を祈る

新しい年を迎えましたが、今年6度目の干支を迎える筆者には、暮れから新年に向けTV・ラジオに流れるニュース、特に国際ニュースにはきな臭い話題が多かったように感じました。ヨーロッパと中東で続く戦争は終わりが見えず、アジアでは相変わらず大陸の国が我が国首相の言葉尻を捉え吠えまくっています。ニュースを見ながらふと思ったことは、有事と表現される戦争が発生した海域を航海中の本船はどう対応するのだろうか？という事です。緊急事態に対応する規定が書かれた ISPS、ISM コードそして SMS マニュアルには航海中戦争に遭遇した場合の対応策の具体的記載は無かったと

記憶しますので、元の会社の後輩たちに確認しました。結果、やはり具体的な対応・指示の記載は無いようです。君子危うきに近寄らずでしょうが、会社からの Sailing Instruction 一枚で、世界中の海を航海する身には何時何処でなど分る筈もなく、逃げるといってもコンテナ船でも20k't程度ではどうしようも無いと思います。

国際的慣習法で非武装の商船等は攻撃を免れる事にはなっていますが、それでも臨検・拿捕は免れません。

先の大戦から80年、未だに戦火が無くならない世界にかつて戦争を仕掛けた我が国はどう対応するのか、そしてその国の貿易を担う船をどう守るのか、国際機関を含めそろそろ真剣に議論・考える時が来ているように思います。

学業に仕事に励む皆様へご安全を UW!

(徳嶋・記)

## 表紙写真「IINO INEOS VESTA(イノ・イネオス・ヴェスタ)」 飯野海運株式会社

本船主要目 全長：229.97m 全幅：36.63m 総トン数：60,637トン  
貨物積載容量：99,000m<sup>3</sup> (98,000m<sup>3</sup> メンブレンカーゴタンク + 1,000m<sup>3</sup> デッキタンク)  
竣工日：2025年9月8日 船籍：リベリア

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。  
新たな年を迎え、本会報も内容の充実に向けた見直しを進めてまいります。形式にとらわれず、より実情に即した投稿をお届けすることが本年の目標です。特に在校生(準会員)の皆様からの積極的な投稿を期待しております。会員の皆様とともに歩む会報づくりへのご協力をお願い申し上げます。

(にしやま\_記)

## 全船協 会報 160号 新春号

2026年1月発行

◇ 発行所：一般社団法人 全日本船舶職員協会 ◇ 編集兼発行人：徳嶋 明宏  
本 部：〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町三丁目7番12号 清話会ビル2階B室  
TEL 03-3230-2651 FAX 03-3230-2653  
E-mail: [honbu@zensenkyo.com](mailto:honbu@zensenkyo.com) URL: <https://www.zensenkyo.com>  
神戸支部：〒650-0015 神戸市中央区多聞通二丁目1番1号 多聞プラムビル2階 山友汽船(株)内  
TEL 078-958-6815 FAX 078-371-5520  
E-mail: [kobe@zensenkyo.com](mailto:kobe@zensenkyo.com)

海事関係の皆様へ



**リニューアルオープン!**

ご宿泊からご宴会・会議等各種会合まで。  
海事関係の皆様から船乗り達が集う憩いの場所として親しまれております。

海事関係のお客様は全日本海員組合の組合員のご紹介があれば  
特別価格にてご利用いただけます。

 HOTEL  
**Mariners' Court TOKYO**  
ホテルマリナーズコート東京

〒104-0053 東京都中央区晴海 4-7-28 TEL.03-5560-2525 mail: banquet@hotel-mariners.co.jp

## 山友汽船株式会社

代表取締役社長 望月正信

〒650-0015 神戸市中央区多聞通2丁目1番1号  
TEL (078) 371-5505 FAX (078) 371-5520  
Email: info@sanyukisen.co.jp

## B&S ENTERPRISE

株式会社ビーアンドエス・エンタープライズ  
TEL (078) 361-6971 FAX (078) 361-6972  
Email: info@bands-k.com

## 株式会社 コトラシステム

代表取締役 望月正信

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-12-13  
日本橋船佐ビル3階

電話 (03) 3245-6975  
FAX (03) 3245-6980  
E-mail: cotrasystem@nifty.com




・海技教育支援・奨学金  
・帆船「海王丸」体験航海・海洋教室 等

公益財団法人 **海技教育財団**

会 長 明 珍 幸 一

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4

電話 (03) 3288-0991 <https://macf.jp>

 **名阪船舶株式会社**

代表取締役 高橋 宏之

〒552-0022 大阪市港区海岸通3丁目2番2号

TEL 06-6572-6221 FAX 06-6574-0635

<http://www.meihansenpaku.co.jp>

ラッシング・チョッキング資材の総合サービス

**株式会社ウシオ**

**100th**  
ANNIVERSARY  
since 1920

代表取締役社長 牛尾 雅英

〒652-0813 兵庫県神戸市兵庫区兵庫町2丁目3番27号

電話 (078) 652-2065 / FAX (078) 652-2070

<http://ushio-kk.co.jp>

東京/横浜/常陸那珂/名古屋/大阪/和歌山/加古川/門司/福岡/香港

社会の重要インフラや物流事業をサポートし、持続可能な未来の創造に貢献する  
Contributing to a sustainable future



**日本フィールド&マリン  
エンジニアリング株式会社**  
Japan Field&Marine Engineering



電気・機械・冷熱・計装事業を中心とした技術サービスを提供しています。

本社 神奈川横浜西区岡野二丁目8番13号 神戸事業所 兵庫県神戸市兵庫区西出町一丁目2番3号  
TEL: 045-290-6085 TEL: 078-651-2727  
横浜事業所 神奈川横浜市神奈川区守屋町一丁目2番2号 神戸F&Mビル 兵庫県神戸市中央区元町六丁目1番6号東室16階  
TEL: 045-461-6971 TEL: 050-3662-6158  
計装事業本部 神奈川横浜市中区鶴見区鶴見中央三丁目4番36号 長崎事業所 長崎県長崎市并天町1番11号  
TEL: 050-3662-6153 TEL: 050-3662-6169

■ センポスの宿・健康診断 ■

今の健診 未来の安心 一般財団法人



**船員保険会**

会 長 岡 部 修

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6

SEMPOSビル 6・7階

電話 (03) 3407-6061 FAX (03) 3407-6597

URL <https://www.sempos.or.jp>



**伊勢三河湾水先区水先人会**

“安全と信頼を提供”

会 長 伊 東 佳 宏

〒455-0032 名古屋市港区入船二丁目4番6号

名港ビルディング 17階

電話: (052) 304-8311 FAX: (052) 304-8312

大阪湾水先区水先人会

会 長 山 田 哲 也

〒650-0042 神戸市中央区波止場町1-5

電話 (078) 321-7221

FAX (078) 321-5307



一般社団法人 **日本船長協会**

会 長 中 村 紳 也

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5 (海事センタービル)

電話 (03) 3265-6641

F A X (03) 3265-8710

U R L <http://www.captain.or.jp>



一般港湾運送事業  
港湾荷役事業  
海上運送事業

通関業  
貨物自動車運送事業  
倉庫業



**東海海運株式会社**

代表取締役社長 鶴 岡 純 一

本 社 東京都港区芝浦2丁目2番18号 ☎東京 (3451) 9311℞  
千 葉 支 店 千葉市中央区今井1丁目19番25号 ☎千葉 (261) 4431℞  
T A C S 東京都江東区青海4丁目4番18号 ☎東京 (3528) 3270℞  
船 橋 営 業 所 船橋市潮見町43番2号 ☎船橋 (437) 7871℞  
横 浜 営 業 所 横浜市中区南本牧3-8 ☎横浜 (415) 0271℞  
ホ ー ム ペ ー ジ <https://tohkaikaiun.com>

一般社団法人 **海 洋 会**

会 長 関 根 博

〒135-0044 東京都江東区越中島2-1-6

東京海洋大学越中島キャンパス内

海の研究戦略マネジメント機構越中島オープンラボ棟1階

電話 (03) 6458-8215

FAX (03) 6458-8214

E-mail: [honbu@kaiyo-kai.com](mailto:honbu@kaiyo-kai.com)

# 船長論

## 引き継がれる海の世界

船長職の何たるかについて、その職務・職責、指揮管理と教育、海難と法、そして、船長としての気質・気概、精神に関して詳述。将来、船員となり船長を目指すそうとする学生、すでに航海士の職にある方、さらに、意欲旺盛なれど不安を払拭できないでいる駆け出しの船長の方々に、ぜひ読んでほしい。

逸見 真 著 A5判上製 368頁 定価3,960円(税込)



# 海技士4N標準テキスト

練習船での実践カリキュラムを基に、航海士になるための基礎を勉強したい方および四級海技士国家試験の勉強をしたい方に最適となるように、航海、運用、法規、英語を1冊にまとめた。灯火、浮標式ほか、一部の図は、読者の理解を助けるためにカラーで掲載。過去問を分類整理した演習問題と解答も豊富に収録。

独立行政法人 海技教育機構 編著 B5判 550頁 定価5,280円(税込)

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4  
TEL 03-3815-3291 FAX 03-3815-3953

## 海文堂出版

<https://www.kaibundo.jp/>  
e-mail: hanbai@kaibundo.jp

## 日本水先人会連合会

会長 高尾 幸徳

我々は「愛、信頼、尊敬、そして思いやり」の意識を一層高めて事故ゼロを目指します。

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地  
電話 03(3262)7511  
FAX 03(3262)3139  
URL <https://www.pilot.or.jp>



内海水先区水先人会  
Licensed Inlandsea Pilots' Association

会長 橋本 孝亮

〒650-0034  
神戸市中央区京町72番地 新クレセントビル3階  
電話(078)332-7191 FAX(078)391-7157  
E-MAIL [info@inlandsea-pilots.jp](mailto:info@inlandsea-pilots.jp)

未来は、海からやってくる。  
**日本海事新聞**  
The Japan Maritime Daily

試読・購読のお申し込みは  
電話 **03-3436-3223** まで

<https://www.jmd.co.jp/>

船舶、船舶装備器具及び部品の販売、輸出。作業船の  
貨物船舶修理、検査工事の請負及びコンサルタント。

K2 シップマネジメント株式会社

〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-13-14  
パークウヅ横浜・巻番館306

電話 : 045-290-6082 FAX : 045-290-6916  
E-mail : [kani@ksh.biglobe.ne.jp](mailto:kani@ksh.biglobe.ne.jp)



Tokyo Bay Licensed Pilots' Association  
東京湾水先区水先人会

会長 黒田 富治

〒231-0023 横浜市中区山下町1番2 パイロットビル  
(代表) TEL (045) 650-3180 FAX (045) 663-4811  
URL: <http://www.tokyobay-pilot.jp>  
E-mail: [headoffice@tokyobay-pilot.jp](mailto:headoffice@tokyobay-pilot.jp)

